

村岡典嗣文書 目録

[]は資料整理者の注記、「日文研旧蔵」は日本文化研究施設からの移管、「思想史研旧蔵」は文学部日本思想史研究室からの移管を示す

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
I 講義ノート類										
村岡	I	1	徳川時代教化概説一、古事記研究、接第一冊	1919年～1920年	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×166	132頁	徳川時代教化概説一(1919年10月8日):朱子学と貝原益軒/国学の発達/心学/平田の祖先教。古事記研究(1920年)。
村岡	I	2	源氏物語の思想	1920年	村岡典嗣	横罫ノート	1	215×170	192頁	広島高等師範学校講義:恋愛観/栄賀観/仏教思想/教養観及び道德思想/自然観/源氏物語の思想的底流
村岡	I	3	日本道德史 上世の研究	1920年5月	村岡典嗣	横罫ノート	1	217×173	74頁	上代道德史、Gnellenとその批判/家族的道德/人道的意識の発生と教化の思想/道德的政治及び有徳君主の思想
村岡	I	4—1	日本道德史	1921年	村岡典嗣	横罫ノート	1	205×163	272頁	広島高等師範学校徳育専攻科講義:日本道德史/国民道德という概念の意義/文献学としての考察/philologieの学問的成立とその本質/史的文化学としての考察/学問の分類としての史的文化学/史的文化学の本質と国民道德史/国家組織の整頓と外来思想の輸入/国家観念及び尊王思想
村岡	I	4—2	日本道德思想史概論	1921年	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×167	188頁	広島高等師範学校徳育専攻科講義:日本道德思想史概論/第1章(古代～戦国時代まで)。
村岡	I	5	神道史概論 第一冊	1921年	村岡典嗣	横罫ノート	1	206×165	274頁	広島高等師範学校徳育専攻科講義(第3回訂正稿):古学神道/古学神道の神学的発展/徳川前期の神道説及び儒家の神道説
村岡	I	6	神道史概論 初メノ部分ノ草稿、Platon/Stautノ研究	1921年5月以前	村岡典嗣	横罫ノート	1	207×165	110頁	広島高等師範学校徳育専攻科講義:①神道史概論/古神道とその発達/仏儒との習合。②Platon Stautの研究/Platon伝に於ける史事及び性格/Platonノ著書
村岡	I	7	神道史概論 第二冊 日本道德史 第二冊	1922年～1923年	村岡典嗣	横罫ノート	1	206×164	274頁	広島高等師範学校徳育専攻科講義(①のみ):①神道史概論/大正10年度広島高等師範学校徳育専攻科講義ノート(資料番号209の続き)。②日本道德史/神観/善悪及び罪の観念/素朴的楽世観/社会的關係に現はれた道德観念/国家組織の整頓と外来道德思想の輸入/国家観念及び尊王思想。③「南里有隣の神学」の構想/「論文掲載雑誌寄贈先」リスト
村岡	I	8—1	日本思想史研究序論	1924年	村岡典嗣	横罫ノート	1	207×165	186頁	東北帝国大学法文学部講義:日本思想史の学問的性質/文献学としての考察/Philologieの学問的成立
村岡	I	8—2	日本思想史研究序論 第二冊	1924年	村岡典嗣	横罫ノート	1	206×163	234頁	①日本思想史研究:近世中期の日本文献学/近世後期の文献学。②「日本思想史研究序論のsystem」メモ:日本思想史の研究手法。③「古語拾遺について」:伝来と異本。④「明治維新の教化政策と神道」:威信政権の祭政一致の方針/政府における神道非宗教論。⑤目録:日本思想史研究/方法論/日本思想史研究序論/研究資料の蒐集、限定及び整理/研究法の実行
村岡	I	8—3	日本思想史研究序論 第三冊	1924年	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×160	92頁	古代における神仏關係を考察したメモ

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	I	8—4	日本思想史研究序論 第四冊	1924年	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×160	92頁	釈義及び了解／歴史的構成とdarstellung／研究法の実行
村岡	I	9	神道史概論 第一巻	1924年	村岡典嗣	横罫ノート	1	201×160	16頁＋292頁	東北帝国大学講義：古神道の原始的要素と一般的性質／古神道の国家教としての成立／古神道の形式的及び内容的発展／仏教の影響／神道論の発生／天主教の伝来と神道との交渉／儒家の神道説／別派諸家の神道観／神道の一般教化的運動
村岡	I	10	神道史概論	1925年	村岡典嗣	横罫ノート	1	204×160	336頁	東北帝国大学法文学部講義：古学神道の神学的・宗教的発展／古学神道発展の内在的契機及び富士谷神道／服部中庸／平田篤胤及び橘守部／佐藤信淵と野々口隆正／六人部是香／鈴木重胤と渡辺石丸／鈴木雅之と南里有鄰／富士講諸派及び御岳教／黒住教／禊教、金光教及び天理教／明治維新の教化行政と神道。
村岡	I	11	源氏物語解題	1925年	村岡典嗣	横罫ノート	1	205×165	142頁	東北帝国大学法文学部講義：源氏講読／書史学的方面より見る源語／文学としての性質とその思想史資料としての意義
村岡	I	12-1	日本思想史研究序論第一冊	1925年	村岡典嗣	横罫ノート	1	203×162	288頁	序論／前編 日本思想史の学問的orientation／第1部 日本文学とその歴史／第1章 Philologieの語義と学問的成立／第2章 日本に於ける文献学的研究第1～4節
村岡	I	12-2	日本思想史研究序論第二冊	1925年～1926年	村岡典嗣	横罫ノート	1	203×162	214頁	第2章5節／第2部 史的文化としての考察／第1章 学問としての歴史／第2章 国民思想史の性質／後編 日本思想史研究方法
村岡	I	13	日本史学史講義 第一稿 第一草案	1926年	村岡典嗣	横罫ノート	1	215×168	150頁	①史学史講義。②新井白石、司馬江漢の資料抄録。③論文「市井の哲人司馬江漢」(昭和5年1月)に関する抄録
村岡	I	14	日本史学史	1927年3月1日講了	村岡典嗣	横罫ノート	1	200×160	286頁	淵源期／歴史ノ神話的伝承／太古人の歴史観／日本書紀／五国史と類聚国史／鏡類及び戦記物の時代／栄華物語と大鏡／水鏡、今鏡及び増鏡／愚管抄と神皇正統記
村岡	I	15	日本近世史学史		村岡典嗣	横罫ノート	1	204×160	288頁	史学史上近世期ノ特色とその区画／近世前期に於ける通史の編纂／近世史学の祖としての林羅山の学問と本朝通鑑／大日本史／本朝通鑑と大日本史との史観の比較／新井白石の史学／伝及び著書の概観／白石の史学史上の業績／白石の史観／国学の運動と史学／国学の由来と完成／国学の史学への貢献の意義／国学の史学への貢献と伴信友の史学／有職学派、博覧派及び考証派／伴信友／頼山陽と佐藤信淵／愚管抄と神皇正統記
村岡	I	16	史家トシテノ白石、宣長、及び信友		村岡典嗣	横罫ノート	1	205×164	44頁	ノート右側のページには新井白石、本居宣長、伴信友の史学に関する記述。ノート左側のページには国学史に関する記述。
村岡	I	17	日本思想史研究序論	1927年、1937年	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×155	264頁	東京文理大講義：日本思想史研究序論／日本思想史の学問的指向／Philologieの意義及び本質／Philologieの語義とその発達／思想史的見地よりの本居学の批判／歴史の諸相と科学的歴史のelementaryの性質／自然科学的歴史観と文化史的歴史観／歴史の特殊性と普遍性と及び客観性

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	I	18—1	日本思想史概論 儒佛耶及ヒ神道交渉ノ見地ヨリ見タル	1928年	村岡典嗣	横罫ノート	1	215×165	258頁	純神道ノ神佛の交渉ノ本地垂迹説ノ中世における神道論ノキリシタンノ神儒仏批判
村岡	I	18—2	日本思想史概論 儒仏耶三教及ビ神道交渉ノ見地ヨリ見タル 第一冊	1928年	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×160	94頁	東北帝国大学講義:純神道ノ神道と儒仏二教との交渉ノ本地垂迹説ノキリシタンノ流通ノ排仏論と神儒一致の傾向
村岡	I	19	日本思想史概論—文学史的観察ヲ中心トシテ	1928年4月19日起稿	村岡典嗣	横罫ノート	1	203×163	160頁	東北学院専門部講義:太古=朴素主義の時代ノ文化的朴素主義の時代ノ主情的感傷主義の時代
村岡	I	20	古語拾遺、古今と万葉、林羅山研究	1921年、1928年	村岡典嗣	横罫ノート	1	215×165	144頁+20頁	①大正10年、古典講習会における講演原稿(1921年):「古語拾遺について」ノ古典としての性質及び意義ノ古語拾遺の含める問題ノ注釈書及び関係書。②東北帝国大学日本思想史特殊研究第三講の講義ノート:思想上より観たる万葉集と古今集との比較ノ支那思想の影響より見たる万葉と古今ノ仏教思想より見たる万葉と古今。③東北帝国大学日本思想史特殊研究第四講の講義ノート:「林羅山の研究」ノ文政家としての羅山ノ儒学者としての羅山ノ大家としての羅山ノ神道家としての羅山ノ羅山の關邪的態度ノ羅山の教学史上における意義 思想史研旧蔵
村岡	I	21	国学史概論	1929年5月6日開講	村岡典嗣	横罫ノート	1	203×160	288頁	東北帝国大学講義:国学前史ノ契沖とその時代ノ荷田春満
村岡	I	22	[講義・講読ノート]	1930年1月~1931年2月	村岡典嗣	横罫ノート	1	217×169	250頁	①論文「思想家としての司馬江漢」草稿。②源氏物語と徒然草の思想史的意義。③東北帝国大学講読:古事記の問題。④東北帝国大学講義:近松の思想 思想史研旧蔵
村岡	I	23	日本思想史概説	1930年	村岡典嗣	横罫ノート	1	222×160	276頁	東北帝国大学法文学部講義:日本思想史の学問的指向とその研究方法ノ思想史の基礎学としてのPhilologieノ日本文献学としての本居学ノ日本思想史の問題ノ日本思想史の時代的区画観と各期の特色ノ神道史とその日本思想史上の意義。
村岡	I	24	近世 元禄時代まで	1930年2月末	村岡典嗣	横罫ノート	1	215×165	124頁	近世国文学史ノ前期(京阪時代)ノ啓蒙時代ノ元禄時代 思想史研旧蔵
村岡	I	25	日本中世思想史	1931年	村岡典嗣	横罫ノート	1	203×157	248頁	日本中世思想史の概念とその研究法ノ中世思想史の展開と特質
村岡	I	26	昭和七年度 普通講義 日本思想史概論 第一冊	1932年	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×168	82頁	序説ノ太古思想ノ神道とその諸觀念ノ諸觀念を通じて存する思想的傾向ノ天皇崇拜と皇国主義ノ上古思想ノ儒教の伝来とその影響ノ仏教の伝来とその影響
村岡	I	27	昭和七年度 特殊講義 古学神道と教祖神道 第一冊	1932年	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×170	100頁	序説ノ古学神道の由来より完成へ
村岡	I	28	古学神道と教祖神道	1933年	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×166	86頁	日本思想史特殊講義:序説ノ平田派諸家の学説ノ平田学派についてノ佐藤信淵と大国隆正
村岡	I	29	古学神道史概論	1933年11月開講	村岡典嗣	横罫ノート	1	205×160	288頁	京都帝国大学、東京文理大学、東北帝国大学講義:古学神道の完成ノ古学の由来と古学神道の端緒ノ古学神道の成立・完成・発展ノ古学神道発展の内在的契機 附富士谷神道ノ三大考ノ平田篤胤の神学 附橋守部ノ平田学派についてノ佐藤信淵と大国隆正ノ六人部是香と渡辺重石丸ノ鈴木雅之と南里有隣

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	I	30	祝詞講読	1933年5月8日開講	村岡典嗣	横罫ノート	1	203×167	88頁	東北帝国大学講義:祝詞本文、注釈書に関する書誌/真淵・宣長の説の紹介
村岡	I	31	日本思想史概論	1933年4月28日開講	村岡典嗣	横罫ノート	1	215×167	202頁	日本思想史の概念と発展の区画観/中古思想の内面的開展/思想史上中世の意義と中世思想構成の要素/中世思想の本質とその史的発展
村岡	I	32	日本思想史概論(近世)	1934年	村岡典嗣	横罫ノート	1	203×162	188頁	東北帝国大学講義:近世思想史の文化的背景と時代的区画/儒学の勃興とその特質 儒学神道/武士道/文学的作品に現はれたる特色
村岡	I	33	日本思想史概論	1935年・1937年	村岡典嗣	横罫ノート	1	226×185	259頁	東北帝国大学(昭和10年度・12年度)、東京文理科大学(昭和12年度)講義:日本思想史の概念とその研究方法/Philologieと国学/国学より日本思想史へ研究法/日本近世思想史概論(元禄時代以後)/元禄時代に於ける近世文化の諸相
村岡	I	34	近世ニ於ケル国體観念ノ発展	1936年	村岡典嗣	横罫ノート	1	207×162	312頁	東北帝国大学、東京帝国大学講義:近世の意義、特質/吉利支丹宗の思想的交渉/国学とその文化史的意義/国学の国體観
村岡	I	35	近世国體観念の発展		村岡典嗣	横罫ノート	1	204×162	168頁	東北帝国大学、東京文理科大学講義:近世の意義・特質/吉利支丹宗の渡来と盛衰/吉利支丹の教化的特質/吉利支丹の思想的交渉/儒学諸派
村岡	I	36	平田学と水戸学	1937年	村岡典嗣	横罫ノート	1	204×160	282頁	東北帝国大学、東京帝国大学日本思想史特殊講義:平田学及水戸学の倫理思想/本居宣長との比較関係/宣長の祖述としての篤胤の古道/篤胤の古道における理論的發展/平田学派の思想/井上哲次郎の国民道徳論の整理
村岡	I	37	[日本思想史の概念と研究法]	1937年	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×163	101頁	日本思想史の概念、研究法/太古思想の自然素朴性/古神道に於ける神々の性質/吉凶善悪相生観/皇国主義の国體観念/儒教の伝来とその作用/仏教の伝来とその作用。
村岡	I	38	[日本思想史概論]	1937年年2月12日講了	村岡典嗣	横罫ノート	1	205×160	104頁	日本思想史概論/聖徳太子について/上古思想資料としての万葉集/上古思想の成果
村岡	I	39	日本(倫理)思想史上ノ諸問題	1938年	村岡典嗣	横罫ノート	1	220×185	192頁	東北帝国大学特殊講義、東京帝国大学特殊講義:日本倫理思想史の諸問題/思想史の概念、学問的指向、及び研究法/国體思想の淵源/太古の素朴的最善観/吉凶相生観と罪惡解除観/憲法十七条とその(倫理)思想史的意義/源氏物語の教養観
村岡	I	40	日本思想史上ノ諸問題	1938年	村岡典嗣	横罫ノートの一部	1	212×165	30頁	東北帝国大学特殊講義:日本思想史上の諸問題/日本思想史の概念、学問的指向及び研究法/末法観、道理観及びその交渉の展開/末法思想の意義及び由来/末法思想の我国に於ける起原と普及
村岡	I	41	国體思想ノ起源及発展	1938年	村岡典嗣	横罫ノート	1	206×163	220頁	東北帝国大学、東京文理科大学講義:国體の講義及び我国體の特殊性/国體思想の淵源/国體思想發展史的特質/近世における発展(前期)/近世の意義及び特質
村岡	I	42	国體ノ淵源	1938年3月	村岡典嗣	横罫ノート	1	208×164	96頁	東京文理科大学講義:国體の淵源/国體とその特殊性/古事記の神代伝説と国體

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	I	43	日本(倫理)思想史上の諸問題(一)	1939年	村岡典嗣	横罫ノート	1	236×196	140頁	東北帝国大学、東京帝国大学講義:末法思想とその展開(末法思想の展開と愚管抄の史観)／我国に於ける末法思想の起源と一般的普及／末法史観の形成／愚管抄とその史観
村岡	I	44	国體思想の淵源とその発展	1940年	村岡典嗣	横罫ノート	2	239×197	第1冊(98頁)、第2冊(96頁)	東北帝国大学、東京帝国大学法学部、東京文理科大学講義:日本(政治)思想史／神代伝説と皇国主義／国體の語義、概念及び日本国體の特殊性／神皇正統記と国體思想／国體思想の淵源／国體思想の発展／大化革新の政治的理論と国體思想／萬葉精神と国體思想の発揚／建武中興と神皇正統記
村岡	I	45	日本(倫理)思想史上の諸問題 第二冊	1940年	村岡典嗣	横罫ノート	1	239×198	96頁	東北帝国大学、東京帝国大学講義:萬葉精神(とその倫理的意義)／萬葉精神とその本質／日本倫理思想史上西洋思想の影響／第二萬葉精神とその倫理的意義／第三日本(倫理)思想史上西洋思想の影響／吉利支丹版現存書表
村岡	I	46	The Manyoshu(万葉精神トソノ発見)	1940年	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×127	68頁	女子高学習院講義:万葉人の外面的世界／万葉人の内面的世界／万葉精神／万葉精神の発見
村岡	I	47	日本政治思想史	1941年	村岡典嗣	横罫ルーズリーフ	4	203×163	第1冊(114頁)、第2冊(74頁)、第3冊(72頁)、第4冊(54頁)	東京帝国大学法学部・文学部、東京文理科大学、東北帝国大学講義ノート:日本政治史とその研究法／国體思想史概説／国體の語義概念及び日本国體の特殊性／国體思想の淵源／太古思想とその特質／古事記の神代伝説と皇国主義／憲法十七条と倫理的國家思想／大化革新の理論と国體思想／万葉精神と国體思想の発揚／日本の儒家と大日本史／水戸学／吉田松陰／古事記の神代伝説と皇国主義／国體思想の規範性／憲法十七条と大化革新の政治的理論
村岡	I	48	平田篤胤及ヒソノ学派ノ思想	1941年	村岡典嗣	横罫ノート(紐綴)	3	200×160	104頁	特殊講義:平田篤胤／平田学派(六人部是香、鈴木重胤、渡辺重石丸、佐藤信淵、大国隆正、鈴木雅之、南里有隣)
村岡	I	49—1	神皇正統記の概説	1942年	村岡典嗣	横罫ノート	1	208×165	142頁	東京企画院、東北帝国大学古典講座、東北帝国大学法文学講義:古典とその効用／国體論／三徳論及び地道論／世界観
村岡	I	49—2	神皇正統記概説/憲法十七条草稿			横罫ノート	1	265×188	138頁	I-49-1と内容的に重複するところがあるが、村岡の字体とは異なる。
村岡	I	50	国学史概論 前編	1942年	村岡典嗣	横罫ノート	1	208×167	144頁	東北帝国大学日本思想史普通講義:序論／国学前史／近世以前における古典研究の概略／近世初期における古典研究の振興／契沖・春満とその時代／契沖学を生せしめし学界の新機運／契沖学／春満学
村岡	I	51—1	日本(倫理)思想史上の諸問題 第一冊	1942年	村岡典嗣	横罫ノート	1	238×193	144頁	東北帝国大学、東京帝国大学講義:末法思想の展開と愚管抄の史観／神仏靈験の信仰及び念仏往生／末法史観の形成／愚管抄の史観 日文研旧蔵
村岡	I	51—2	日本(倫理)思想史上の諸問題 第二冊	1942年	村岡典嗣	横罫ノート	1	238×195	144頁	東北帝国大学、東京帝国大学講義:末法思想の展開と愚管抄の史観／神仏靈験の信仰及び念仏往生／末法史観の形成／愚管抄の史観 日文研旧蔵

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	I	52—1	近世国體思想史 第一冊	1942年	村岡典嗣	横罫ノート	1	160×203	85頁	東京文理科大学・東京帝国大学法学部講義：国体思想史の任務と概観／近世国体思想史の区画／儒学諸派／大日本史学派／垂加神道／国学／水戸学／平田派／明治維新前後
村岡	I	52—2	近世国體思想史 第二冊	1942年	村岡典嗣	横罫ノート	1	208×170	160頁	国学の国体思想（荷田春満、契沖、賀茂真淵、本居宣長）
村岡	I	53	日本思想史概説	1942年10月	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×158	188頁	東北帝国大学、東京文理科大学、早稲田大学講義：日本思想史の概念及び学問的志向／大化の改新と万葉精神／美的教養観とその底流
村岡	I	54	日本（倫理）思想史上ノ問題	1942年10月20日開講	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×158	144頁	東北帝国大学、東京帝国大学講義：日本精神の研究／日本精神の諸義とその批判／日本の歴史的特性又は歴史的日本の個性／歴史的日本の原理としての道義／国学と哲学
村岡	I	55—1	日本思想史講義 I	1943年10月以降	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×168	74頁	東京文理科大学、早稲田大学、東北帝国大学日本思想史普通講義：近世における国体の思想史研究。
村岡	I	55—2	日本思想史講義 II	1943年10月以降	村岡典嗣	横罫ノート	1	208×168	54頁	I—55—1の続き。
村岡	I	56—1	古事記序文講義	1944年10月	村岡典嗣	原稿用紙編綴	1	260×180	34頁	古事記序文研究の重なる文献／序文解釈の二つの態度／チェンバレンの英訳区分の解説／古事記序文の注釈
村岡	I	56—2	古事記講義（序文）	1945年4月30日	村岡典嗣	原稿用紙編綴	1	260×180	46頁	日本文化研究会講義：古事記偽書説について／序文解釈の態度／古事記序文の注釈
村岡	I	57	I、日本思想史概論 II、日本国民性ノ精神史的研究	I：1944年12月 II：1945年4月	村岡典嗣	横罫ノート	2	260×180	2冊とも 80頁	東北帝国大学講義：日本思想史概論／日本国民性の精神史的研究／日本文化の二特性
村岡	I	58	明治維新之思想史的意義	1945年10月起筆	村岡典嗣	横罫ノート	1	255×180	80頁	明治維新の思想史的性格とその研究の意義
村岡	I	59	忠君愛国思想の発達		村岡典嗣	横罫ノート	1	209×165	172頁	近世以前に於ける概観／近世初期／文教の興隆と忠君思想の淵源／大日本史の修史／国学の由来と発達／竹内式部と山縣大貳／寛政三士
村岡	I	60	神道史概論		村岡典嗣	横罫ノート	1	205×165	206頁	神道史概論／前編（上世及び中世）／近世前期の神道／真宗と天主教との神道観
村岡	I	61	神道史概論 第二冊		村岡典嗣	横罫ノート	1	206×160	166頁	近世前期の神道／儒家の神道説／吉川惟足と度会延佳／垂加神道／別派諸家の神道説／神道の一般教化的運動
村岡	I	62	神道史概論 第二冊		村岡典嗣	横罫ノート	1	206×165	96頁	別派諸家の神道説／神道の一般教化運動
村岡	I	63	本居宣長之学説		村岡典嗣	横罫ノート	1	207×165	186頁	①本居宣長之学説：目次／序説／伝記／宣長ノ学問ノ概念ト研究ノ精神／宣長学ノ形式的概観／宣長ノ学説／文学説及び語学説／宣長ノ学説／古道説／宣長学ノ意義及び關係。②cary's a history of christianity in japan II, protestant missionsの要約or抜書。③9つの資料を弘安4(1281)年の前と後に分類したメモ
村岡	I	64	近世国体思想史			印刷物	1	257×368	72枚	講義ノートのコピー。 日文研旧蔵

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	I	65	講義プログラム	1937年～1942年	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×168	56頁	年度ごとの講義題目：昭和12年度(東北帝大、東京帝大、東京文理大)／昭和13年度(東北帝大、東京帝大、東京文理大)／昭和14年度(東北帝大、東京文理大、東京帝大)／昭和15年度(東北帝大、東京文理大、東京帝大)／昭和16年度は空白／昭和17年度(東北帝大、東京帝大、東京文理大)
村岡	I	66	[講義関係覚書]		村岡典嗣	藁半紙	1	259×210	1枚	平田学派之思想家(昭和18年2月)／国学史概論前編(昭和17年3月)／特殊研究(大正10年4月)／史学者としての伴信友(昭和2年5月)／神道史概論(大正14年) 日文研旧蔵

II 原稿類

村岡	II	1—1	Herakleitosの研究	1908年	村岡典嗣	横罫ノート	1	213×167	192頁	早稲田哲学会講演原稿：Herakleitosの哲学思想／Herakletosの哲学の中心思想
村岡	II	1—2	[ギリシア哲学関係原稿]	1916年	村岡典嗣	横罫ノート	1	205×163	142頁	Thulesの学説とその歴史的意義／ParmenidisのSeinの思想について／HerakleitosのCoincidentia oppositorumの思想／Herakleitosの研究
村岡	II	1—3	Herakleitos	1916年	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×170	96頁	Herakletosの思想の全汎的概観／彼の哲学における主要なる思想とその分析、I Fire、II 流転変化の思想、III Harmony of opposits—gisetz／彼の思想のrelationとそのwisentbchの思想／Zeller等の見解の批評
村岡	II	1—4	Herakleitosノ哲学ノ研究		村岡典嗣	横罫ノート	1	205×163	96頁	Introduction／彼の哲学に於ける主要なる思想とその分析(①流転変化の思想、②Fire、③Harmony of opposite)／主要なる思想の内在的關係と彼の哲学のWesen／別種の解釈(Zeller、Baumker)の批評
村岡	II	2—1	神典研究	1915年	村岡典嗣	横罫ノート	1	168×213	50頁	早稲田大学東洋学会講演原稿：徳川時代の神典研究／神典の意義と種類／徳川以前の記紀神代巻の研究とその性質の概観／近世初期の排佛的傾向と神典の研究／元禄に於ける学界の新機運—古学の運動／神典の史学的研究／神典の文献学的研究／神典の批評的研究
村岡	II	2—2	徳川時代ニ於ケル神典研究1		村岡典嗣	横罫ノート	1	210×165	92頁	神典に関する学問的研究をうながした機運について／新井白石・吉見幸和・伊勢貞丈／本居宣長
村岡	II	2—3	徳川時代ニ於ケル神典研究4		村岡典嗣	横罫ノート	1	212×169	35枚	平田篤胤／富士谷御杖／橋守部
村岡	II	3	平田篤胤ノ神学ニ於ケル耶蘇教の影響	1919年12月～1920年1月	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×163	76頁	古史伝に於ける神学思想／耶蘇教の影響／本教外編／呵妄書と鬼神新論／本居より平田へ／平田派と平田
村岡	II	4	橋守部の学説	1920年6月28日起稿、7月1日脱稿	村岡典嗣	縦罫ノート	1	204×162	68頁	橋守部について／守部の著述(和歌)／守部の著述(『稜威言別』)／守部の神典解釈の特徴
村岡	II	5	古神道に於ける道德意識とその発達	1920年～1921年	村岡典嗣	縦罫ノート	1	203×163	110頁	「古神道に於ける道德意識とその発達(草稿)」／「Platon Stuartの研究、別冊ノ続き」／「古神道に於ける道德意識とその発達」(『哲学研究』大正十年一月号掲載論文の第一草稿)／「上古国民思想ノ固有的方面ヲ代表スル古神道について」／会沢正志斎の著書目録／吉田宇之助『物徳要論』目次／村岡本人による履歴書(大正10年2月23日まで)

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	Ⅱ	6	南里有隣之神道思想	1923年3月	村岡典嗣	横罫ノート	1	208×170	96頁	『思想』36号(大正13年10月)掲載論文の原稿
村岡	Ⅱ	7	きやとへかとの考	1924年10月	村岡典嗣	ノート	1	207×165	126頁	『思想』38号(大正13年12月)掲載の原稿の第一稿。キリシタン文献について概観/ヨーロッパにおける「きやどぺかどる」の残存状況/「きやどぺかどる」について残された課題
村岡	Ⅱ	8	垂加神道の本質及本居への関係	1925年2月27日稿了、3月1日第1回訂正	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×167	96頁	『思想』42号(大正14年4月)掲載論文の原稿
村岡	Ⅱ	9	聖書漢譯源流考	1926年7月	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×160	228頁	①「漢譯聖書源流考」(昭和2年12月)の原稿 ②「神道と耶蘇教との歴史的交渉」(大正15年8月): 天主教渡来/流布/禁制期/古学神道/蕃山/延佳/新教渡来/平田門、南里、明治初期/平田篤胤
村岡	Ⅱ	10	徳川時代ニ於ケル古代主義ノ思想	1927年8月	村岡典嗣	横罫ノート	1	214×166	192頁	文部省主催夏期講習・講演原稿: 儒学における古代主義の思想/国学における古代主義の思想/仁斎/徂徠/契沖、春満、真淵/宣長/篤胤、鈴木雅之、南里有隣、佐藤信淵
村岡	Ⅱ	11—1	本居宣長 重版 原稿	1927年	村岡典嗣	原稿用紙(未編綴)	6	370×273	60枚	『本居宣長』(岩波書店、1923年)原稿。『本居宣長』(警醒社、1911年)の増補版。自筆原稿と警醒社本をノートに貼り付けた校正原稿が混在: 宣長学の研究/宣長学とその区分及び著書の概観
村岡	Ⅱ	11—2	本居宣長 重版 原稿	1927年	村岡典嗣	原稿用紙(未編綴)	5	370×274	58枚	『本居宣長』(岩波書店、1923年)原稿。『本居宣長』(警醒社、1911年)の増補版。自筆原稿と警醒社本をノートに貼り付けた校正原稿が混在: 宣長伝の研究/宣長学の学問の概念と研究の精神/宣長が古典の研究と訓詁註釈
村岡	Ⅱ	11—3	本居宣長 重版 原稿	1927年	村岡典嗣	原稿用紙(未編綴)	6	364×273/273×188	65枚	『本居宣長』(岩波書店、1923年)原稿。『本居宣長』(警醒社、1911年)の増補版。自筆原稿と警醒社本をノートに貼り付けた校正原稿が混在: 宣長の講義/本居家の生計の状態/宝暦9年における宣長の講義内容に関する表/宣長の学徒及び交友について/信友と篤胤との思想面における評価/宣長の学友
村岡	Ⅱ	11—4	本居宣長 重版 原稿	1927年	村岡典嗣	原稿用紙(未編綴)	5	375×270	53枚	『本居宣長』(岩波書店、1923年)原稿。『本居宣長』(警醒社、1911年)の増補版。自筆原稿と警醒社本をノートに貼り付けた校正原稿が混在: 宣長学の意義及び内在的關係/本居宣長研究のための資料及び文献/本居が源氏物語堂の巻の一節の解釈/本居宣長が神の定義/本居大平が記せる「恩頼」について
村岡	Ⅱ	11—5	本居宣長 重版 原稿	1927年	村岡典嗣	原稿用紙(未編綴)	5	377×280	63枚	『本居宣長』(岩波書店、1923年)原稿。『本居宣長』(警醒社、1911年)の増補版。自筆原稿と警醒社本をノートに貼り付けた校正原稿が混在: 宣長学の研究/宣長学の意義及び内在的關係/宣長学の研究/近世の古学
村岡	Ⅱ	11—6	本居宣長 重版 原稿	1927年	村岡典嗣	原稿用紙(未編綴)	5	382×273	57枚	『本居宣長』(岩波書店、1923年)原稿。『本居宣長』(警醒社、1911年)の増補版。自筆原稿と警醒社本をノートに貼り付けた校正原稿が混在: 近世の古学/宣長学の成立、契沖、真淵と宣長/宣長学の根本思想

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	II	11—7	本居宣長 重版 原稿	1927年	村岡典嗣	原稿用紙(未編綴)	6	373×275	77枚	『本居宣長』(岩波書店、1923年)原稿。『本居宣長』(警醒社、1911年)の増補版。自筆原稿と警醒社本をノートに貼り付けた校正原稿が混在:宣長学の思想/反本居学説及び宣長学の発展/本居宣長の神の定義/本居が源氏物語堂の巻の一節の解釈/本居大平が記せる宣長の学統的恩頼について
村岡	II	12—1	史学者トシテノ伴信友	1927年10月10日起稿	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×166	64頁	昭和2年11月5日の京都帝国大学史学研究会における講演会の原稿:伴信友の学問と史学史上の意義/史学に於ける国学の貢献と伴信友の学問/本居学の発展/平田と信友/近世史学史上に於ける国学の貢献の意義/国学完成前における史学の状態 殊に新井白石の史学/本居の国学、その史学との関係、白石の学問との対照、史学への寄与貢献、potentialityに於いて、外面的、内面的/伴信友の考証学に於ける国学の史学的発展
村岡	II	12—2	近世史学史上ニ於ケル国学ノ貢献	1927年10月23日稿	村岡典嗣	横罫ノート	1	204×163	50頁	京都帝国大学史学研究会講演の原稿:国学成立前における史学の状態、殊に新井白石の史学/本居の国学、その史学との関係、白石の学問との対照、史学への寄与貢献、事実とpotentiality、外面的、内面的
村岡	II	13	古学神道とその神学的発展	1928年以前	村岡典嗣	横罫ノート	1	238×200	66頁	右ページに「東洋哲学史 日本第1部」の印刷物を貼り付けたノート
村岡	II	14	仙台の切支丹について	1928年	村岡典嗣	横罫ノート	1	205×160	120頁	仙台市文化講座における講演原稿:吉利支丹の概観/吉利支丹の教化的特質/吉利支丹の流通及び禁制の原因及び文化史的効果/仙台地方における吉利支丹/伊達藩の吉利支丹政策/きりしたん抄及び吉利支丹遺物/大籠における伝説及び遺跡
村岡	II	15	国民思想史	1928年	村岡典嗣	縦罫ノート	1	205×162	34頁	「昭和三年十月十三日より十時間の講演の為の原稿」。国民思想史の意義と段階/太古/上古/中古及び中世。
村岡	II	16	国民道德論	1930年	村岡典嗣	横罫ノート	1	208×167	96頁	文部省主催中等教員講習会。国民道德思想の歴史的発展/国民道德という語の意義/国民道德の原則/思想的見地よりの歴史的研究/国民道德発展の概観
村岡	II	17	本居宣長ノ古道	1930年	村岡典嗣	横罫ノート	1	203×160	94頁	三重県教育会主催・夏期講習会(本居大人生誕二百年記念)における講演草稿:概説/古典学と古道/近世古学の運動/宣長の学問の宗教的性質
村岡	II	18	日本哲学史	1932年4月8日起稿	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×165	80頁	『東洋哲学史 日本第1部』所収論文の原稿。序説/古神道の哲学/素朴的最善観/国家主義/国民道德の淵源/古学神道の哲学/古学神道の発生まで
村岡	II	19	神道之倫理学	1932年9月18日	村岡典嗣	横罫ノート	1	212×169	96頁	岩波講座原稿:神道の倫理学/「大祓詞」の「罪惡」に関すること/「宣命」に関すること/「五部書」に関すること/「三社託宣」に関すること/「称辞竟奉」に関する諸説。
村岡	II	20—1	枕草紙と徒然草 その比較其一	1932年	村岡典嗣	横罫ノート	1	212×166	144頁	『佐佐木信綱博士還暦記念論文集 日本文学論叢』に掲載された「枕草紙と徒然草」の原稿前半。
村岡	II	20—2	枕草紙と徒然草 その比較其二	1932年	村岡典嗣	横罫ノート	1	212×166	88頁	『佐佐木信綱博士還暦記念論文集 日本文学論叢』に掲載された「枕草紙と徒然草」の原稿後半。

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	II	21	日本文化ノ特質	1934年	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×165	52頁	東北帝国大学法文学部第二次夏期講習会における講演原稿:文化の意義と日本文化/日本文化の雑多性とそのうちに存する統一/日本文化の歴史的回顧/日本文化の将来
村岡	I	22	神道トソノ特質 草案	1935年7月	村岡典嗣	横罫ノート	1	170×212	22頁	神道とその特質/神道の定義/神道の諸相/神道の特質/皇国主義。内容はメモ書きだが、構成は『岩波講座東洋思潮(東洋思想の展開)』(岩波書店)所収「日本神道の特質」と関連する。
村岡	II	23	徂徠学と宣長学との関係	1945年5月25日起稿	村岡典嗣	原稿用紙(20×20、二つ折り、紐綴じ)	1	227×148	108頁	東北帝国大学日本文化研究室における日本思想史学会の講演原稿
村岡	II	24—1	日本精神を論じて敗戦の原因に及ぶ	1945年9月	村岡典嗣	横罫ノート	1	212×152	80頁	東北帝国大学特別講義原稿:日本精神を論じて敗戦の原因に及ぶ/日本精神ノ意義とその歴史的発現/日本精神の正体とその特色/日本精神と民主主義」のメモ書き(昭和21年10月26日)
村岡	II	24—2	日本精神を論ず—敗戦の原因	1945年11月中旬	村岡典嗣	原稿用紙	1	247×175	111枚	東北帝国大学法文学部特別講義の原稿:敗戦の根本的原因/「日本精神」、「国民精神」の定義/①「中間原理」②「国際的特殊性」、③「国内的普遍性」/「日本的道義」の発見した歴史的過程について日本の国民性の長所と短所について
村岡	II	24—3	日本精神を論ず—敗戦の原因—	1945年11月中旬	村岡典嗣	原稿用紙	1	248×181	107頁	秋田県仙北郡六郷村東根の坂本正二宅にて執筆。昭和20年9月12日・13日、講演原稿:国体/日本精神 日文研旧蔵
村岡	II	25	時勢の変革と歴史の反省—愚管抄と文明論の概略	1945年12月	村岡典嗣	原稿用紙	1	245×175	81枚	『潮流』2号(昭和21年2月)の原稿:敗戦/国体/愚管抄/文明論之概略
村岡	II	26—1	I、国学ニツイテ(覚書) II、平田篤胤ノ人物、学問、思想	1945年	村岡典嗣	横罫ノート	1	195×150	70頁	Iの構成は、序/国学の由来/国学の成形/国学の発展/結論。IIは昭和20年4月12日・東北帝国大学全学講義。
村岡	II	26—2	[平田篤胤の人物・学問・思想の原稿]	1945年	村岡典嗣	原稿用紙(20×10)	1	243×175	107枚	刊行本(Ⅲ—27)の2頁上段11行目から30頁下段16行目までの原稿 日文研旧蔵
村岡	II	27	[原稿の一部]		村岡典嗣	原稿用紙	1	255×183	1枚	本居学と平田学の関係に関する記述 日文研旧蔵
村岡	II	28	村岡先生 日本歴史の特質と精神文化の業績	1947年	村岡典嗣先生 著作集編集委員会	原稿用紙	1	353×257	71枚	『日本思想史研究 第4』(岩波書店)の原稿 日文研旧蔵
村岡	II	29	吉利支丹版に就いて		村岡典嗣	横罫ノート	1	210×165	98頁	吉利支丹版とその由来/既存吉利支丹版の概観と主なるものの解説/吉利支丹版の史的意義/吉利支丹版の分類/主要文献の解説/意義に関する考察。
村岡	II	30	日本古代精神とその発展		村岡典嗣	原稿用紙+ 横罫ノート紙片	1	原稿用紙 255×346 ノート紙片 264×210	原稿用紙1枚、 ノート紙片13枚	目次/序言/前編、日本古代精神とは何ぞ/序/神観及びそを中心とする諸観念/祭祀と歌謡/現実主義/理想/後編、その発展/序/発展の経過/国学における発現の一、賀茂真淵学/国学における発現の二、本居宣長学/結論

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	Ⅱ	31	日本思潮		村岡典嗣	印刷物＋原稿	1	261×185	117頁	「日本思潮」／序説／第一 太古の自然的朴素主義／序／神観及びを中心とする諸観念／祭祀と歌謡／現実主義／自然的朴素主義の理想／結語／第二 上古の文化的朴素主義／序／儒教の伝来とその太古思想への作用／仏教の伝播と大陸文化の摂取／上古思潮の真相／結語／第三 中古の感傷的主情主義／序／上古的より中古的への推移／中古思想の成形／内面的開展とその諸相
村岡	Ⅱ	32	稿本本居宣長随筆 解題		村岡典嗣	横罫ノート	1	208×165	96頁	『稿本本居宣長随筆集』の原稿：「稿本本居宣長随筆解題」
村岡	Ⅱ	33—1	〔本居宣長全集 原稿〕		村岡典嗣	原稿用紙（表紙は印刷物の紙背）	3	259×182	①42枚、 ②6枚、 ③24枚	①の表題は「石上漫録」。②の表題は「石上永言随筆」。③の表題は「本居宣長随筆一」。ほかに村岡教授記念論文集の内容メモ、本居宣長全集下のメモ書き。
村岡	Ⅱ	33—2	〔本居宣長全集 原稿〕		村岡典嗣	原稿用紙（表紙は印刷物の紙背）	1	261×191	132枚	表題は「本居宣長随筆二」
村岡	Ⅱ	33—3	〔本居宣長全集 原稿〕		村岡典嗣	原稿用紙（表紙は印刷物の紙背）	2	261×191	①74枚、 ②54枚	①の表題は「本居宣長随筆三」。②は表題なし。
村岡	Ⅱ	33—4	〔本居宣長全集 原稿〕		村岡典嗣	原稿用紙（表紙は印刷物の紙背）	1	260×192	110枚	表題は「本居宣長随筆五」
村岡	Ⅱ	33—5	〔本居宣長全集 原稿〕		村岡典嗣	原稿用紙（表紙は印刷物の紙背）	1	260×192	66枚	表題は「本居宣長随筆七」
村岡	Ⅱ	33—6	〔本居宣長全集 原稿〕		村岡典嗣	原稿用紙（表紙は印刷物の紙背）	1	260×193	102枚	表題は「本居宣長随筆八」
村岡	Ⅱ	33—7	〔本居宣長全集 原稿〕		村岡典嗣	原稿用紙（表紙は印刷物の紙背）	1	260×193	50枚	表題は「本居宣長随筆九」
村岡	Ⅱ	33—8	〔本居宣長全集 原稿〕		村岡典嗣	原稿用紙（表紙は印刷物の紙背）	1	262×192	81枚	表題は「本居宣長随筆十一」
村岡	Ⅱ	33—9	〔本居宣長全集 原稿〕		村岡典嗣	原稿用紙（表紙は印刷物の紙背）	1	262×193	77枚	表題は「本居宣長随筆十二」

Ⅲ 別刷・刊行物

村岡	Ⅲ	1	原著者評伝	1907年	村岡典嗣	製本印刷物	1	220×150	20頁	波多野精一・村岡典嗣共訳『サバティエ・宗教哲学概論』（明治40年刊行）の一部
村岡	Ⅲ	2	枕草子と徒然草	1932年	村岡典嗣	製本印刷物	1	221×151	36頁	『佐佐木信綱博士還暦記念論文集 日本文学論纂』に掲載された論文の別刷。

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	Ⅲ	3	神道の倫理学	1932年	村岡典嗣	製本印刷物	3	225×153	35頁	古神道／儒仏神道／古学神道／教祖神道
村岡	Ⅲ	4	東洋哲学史(日本第一部)	1932年	村岡典嗣	製本印刷物	1	224×150	78頁	『岩波講座哲学[概説]』(岩波書店)の別刷:古神道の原始哲学／古学神道とその神学的発展／一二の特殊思想家
村岡	Ⅲ	5	日本思想史学会会報 第一号	1934年6月	日本思想史学会	製本印刷物	1	225×153	32頁	論文6篇(村岡典嗣「本居宣長の臨終」など)／会員近業／新刊紹介／会内消息／会員名簿／日本思想史学会会規／投稿規定
村岡	Ⅲ	6	日本思想史学会会報 第二号	1934年12月	日本思想史学会	製本印刷物	5	225×153	26頁	論文6編／余白録／新刊紹介／会内消息／裏表紙に会規・投稿規定
村岡	Ⅲ	7	日本学者としての故チャンブレ教授	1935年5月	村岡典嗣	製本印刷物	1	221×150	44頁	東北帝大文科会編『文化』第2巻第5号の別刷。
村岡	Ⅲ	8	村岡典嗣「日本の教育構成原理としての国学」、森田康之助・梅田義彦「神道用語集(十四)」、森田康之助「晩年の親鸞—その民族的思考について」〔論文別刷〕	1935年以降	村岡典嗣、森田康之助、梅田義彦	製本印刷物	3	①223×150、 ②210×150、③210×149	①11頁、 ②25頁、 ③20頁	村岡典嗣「日本の教育構成原理としての国学」(『教育1月号』昭和10年)、森田、梅田「神道要語集(十四)」、(国学院大学日本文化研究所紀要)第十七輯、1965年9月)、森田「晩年の親鸞教—その民族的思考について」(『神道学』47、1965年11月)の別刷。
村岡	Ⅲ	9	村岡典嗣教授論文別刷	1935年～1940年	村岡典嗣 / tadao.doi	製本印刷物	7部	220×150 (①～⑥)、 253×173 (⑥)	それぞれ「内容注記」に記載	「日本の教育構成原理としての国学」(『教育』、昭和10年1月)／「日本学者としての故チャンブレ教授」(『文化』第2巻第5号昭和10年5月)／「史家としての本居宣長」(『本邦史学史論叢』昭和13年11月9日)／「国学に於ける倫理思想」(『岩波講座、倫理学』第2冊、昭和15年6月15日)／「das sprachstudium der gesellschaft.jesu in japan in 16und 17 jahrhundert」von tadao doi,hiroshima(『MONUMENTA NIPPONICA(日本文化誌叢)』VOL.II semi-annual NO.2.sophia university(上智大学)1939)※タイトルの日本語訳は「16世紀から17世紀にかけての日本におけるイエズス会の言語研究」。著者は土井忠生。
村岡	Ⅲ	10	日本神道の特質	1936年5月	村岡典嗣	製本印刷物	2	225×151	38頁	『岩波講座東洋思潮[東洋思想の展開]』(岩波書店)の別刷:「東洋思想に於ける日本の特質」／神道の語義、定義及び諸相／皇国主義／現実主義／明浄主義
村岡	Ⅲ	11	史家としての本居宣長	1938年11月9日脱稿	村岡典嗣	製本印刷物	3	219×148	32頁	『本邦史学史論叢』(昭和14年5月刊)に掲載された論文の別刷
村岡	Ⅲ	12	明治維新の教化統制と平田神道—信教の自由の公認まで	1938年	村岡典嗣	製本印刷物	1	224×150	24頁	『波多野精一先生献呈論文集 哲学及び宗教と其歴史』の別刷
村岡	Ⅲ	13	図書 第四十三号	1939年8月5日	岩波書店	製本印刷物	2	229×149	50頁	村岡典嗣「紅葉山人読むところ源氏物語のこと」
村岡	Ⅲ	14	日本精神史方法論	1940年11月	村岡典嗣	製本印刷物	2	222×150	30頁	『世界精神講座』(昭和15年12月)所収論文の別刷
村岡	Ⅲ	15	国学に於ける倫理思想	1940年	村岡典嗣	製本印刷物	3	221×150	46頁	『岩波講座 倫理学』第二冊別刷
村岡	Ⅲ	16—1	神道に於ける倫理思想	1941年	村岡典嗣	製本印刷物	3	211×149	46頁	『岩波講座 倫理学』第十冊別刷
村岡	Ⅲ	16—2	神道に於ける倫理思想	1941年	村岡典嗣	製本印刷物	1	221×149	46頁	『岩波講座倫理学』第十冊所収の別刷:神道／倫理思想／古事記／神皇正統記／皇国主義／現実主義 日文研旧蔵

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	Ⅲ	17—1	日本倫理思想史上西洋思想との交渉	1941年	村岡典嗣	製本印刷物	2	221×148	46頁	『岩波講座 倫理学』第八冊抜刷:「日本思想史上の諸問題 昭和十五年度講義を公表せるもの」
村岡	Ⅲ	17—2	日本倫理思想史上西洋思想との交渉	1941年	村岡典嗣	製本印刷物	1	221×148	46頁	『岩波講座倫理学』第八冊所収の別刷:吉利支丹時代/蘭学時代/西洋思想/吉利支丹/蘭学/国民思想/道德思想 日文研旧蔵
村岡	Ⅲ	18	中古に於ける教養観	1941年	村岡典嗣	製本印刷物	2	221×150	45頁	『岩波講座 倫理学』第十三冊別刷
村岡	Ⅲ	19—1	下克上と武士道	1941年	村岡典嗣	製本印刷物	1	222×150	25頁	『岩波講座 倫理学』第十五冊別刷:下克上の定義/社会的是認と道德的意義の発生/道德史上に於ける武家政治/余論-武士道と尊王道。
村岡	Ⅲ	19—2	下剋上と武士道	1941年	村岡典嗣	製本印刷物	1	222×150	25頁	日文研旧蔵
村岡	Ⅲ	20	基督教と日本思想	1942年2月	村岡典嗣	製本印刷物	2	207×147	18頁	『カトリック研究』(昭和17年1・2月号)の別刷:近世初期と幕末期
村岡	Ⅲ	21	本居宣長全集月報 第一号	1942年12月	村岡典嗣	製本印刷物	1	210×149	6頁	『本居宣長全集』第一回配本附録/「本居宣長」のおもひ出その他/「編輯室より」
村岡	Ⅲ	22	本居宣長全集月報 第二号	1943年5月	村岡典嗣	製本印刷物	1	210×149	6頁	『本居宣長全集』第二回配本附録/「本居宣長全集」訪書記 その二/二つの批評について/編輯室より
村岡	Ⅲ	23	本居宣長全集月報 第三号	1943年8月	村岡典嗣	製本印刷物	1	210×149	4頁	『本居宣長全集』第三回配本附録/「本居宣長全集」訪書記 その二/編輯室より
村岡	Ⅲ	24	本居宣長全集月報 第五号	1944年3月	村岡典嗣	製本印刷物	1	210×149	4頁	『本居宣長全集』第五回配本附録/鈴屋餘響 その二/編輯室より
村岡	Ⅲ	25	本居宣長全集月報 第六号	1944年6月	村岡典嗣	製本印刷物	1	210×149	4頁	『本居宣長全集』第六回配本附録/『大平翁御手記之寫』について/編輯室より
村岡	Ⅲ	26—1	日本精神論	1943年	村岡典嗣	製本印刷物	1	209×147	92頁	『日本国家科学大系』所収論文。序説/日本精神の諸義とその批判/日本の歴史的特性または歴史的日本の個性/歴史的日本の原理としての道義/結論 日文研旧蔵
村岡	Ⅲ	26—2	日本精神論	1943年	村岡典嗣	製本印刷物	1	229×148	94頁	
村岡	Ⅲ	27	日本叢書 平田篤胤	1946年5月	村岡典嗣	製本印刷物	1	182×128	31頁	昭和20年11月19日、秋田県仙北郡六郷村東根の坂本正二宅にて旧稿整理。篤胤の生涯、思想形成(前期・中期・後期)の論考。
村岡	Ⅲ	28	林羅山と神道	1939年7月	浅野明光	製本印刷物	1	221×150	37頁	東北帝国大学文科会編『文化』第六卷第七号所収論文の別刷:林羅山/藤原惺窩/神社考/伊勢内宮外宮勘文/儒教的合理主義 日文研旧蔵
村岡	Ⅲ	29	村岡典嗣先生略歴并著作年表	1950年4月	梅澤伊勢三	製本印刷物	1	212×152	7頁	日本思想史学会刊行
IV 資料メモ・資料抄録類										
	IV	1	[資料メモ・抄録]							
村岡	IV	1—1	[資料メモ・抄録]	1917年~1920年頃	村岡典嗣	横罫ノート	1	131×206	73頁	読了した書物のリスト、内容のメモ

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	IV	1—2	Selections I [資料メモ・抄録]	1919年	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×167	192頁	ヴントなどのドイツ語文献からの抄録。
村岡	IV	1—3	Selections II [資料メモ・抄録]	1919年	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×167	144頁	ドイツ語文献からの抄録／古学、キリシタン、黒住教、禊教、天理教についての関係書籍メモ。
村岡	IV	1—4	哲学辞典 希臘之部 第二冊 [資料メモ・抄録]	1919年11月	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×173	86頁	①プラトン研究書(Edward Caird “The Evolution of Theolgy in the Greek philosophy” 1,1901, Hans Kaeder “Platons philosophische Entsickelung”, 1905 など)の要約。②『哲学辞典』、希臘之部の「Snakaforas」「Herakleitos」の二項目の記述／「黒住宗忠」の項目／『哲学辞典』、神道之部の項目リスト。③「第二部、日本道德史、上世ノ研究」の構成構想
村岡	IV	1—5	読遇抄録 [資料メモ・抄録]	1921年年6月	村岡典嗣	縦罫ノート	1	201×158	76頁	『国史館日録』／『楓軒偶記』／会沢正志斎／水戸学
村岡	IV	1—6	仙台雑記 [資料メモ・抄録]	1924年6月	村岡典嗣	横罫ノート	1	205×165	138頁	「狩野氏旧蔵書仮目録」／「狩野文庫仮目録第二抄」／桑厚如則『賤のをたまき』／「故切支丹馬場左馬丞類族存命帳」／桑厚如則「叢塵集」／桑厚如則「編年武林記略」／桑厚如則「喜雨盧隨筆」／桑厚如則「田海録」／桑厚如則「叢庵雜記」／桑厚如則「自家記録」／山田孝雄「耶穌会出版の太平記抜書」(芸文3—3、大正元年3月)／玉井幸助「更紀日記錯簡の復旧」上、下、／東京朝日大正13年9月3日きりぬき／「弾笑語神敵論」／「花鳥余情」／「ジャツケ氏談」／「野槌」
村岡	IV	1—7	[資料メモ・抄録]	1924年頃	村岡典嗣	縦罫ノート	1	208×165	50頁	近松門左衛門の『口鯉出世口徳』、『夕霧阿波鳴渡』、『山崎与次兵衛寿の門松』をもとにした考察メモ／漢訳聖書目録／ノートの間に小冊子『度会神主延佳詠草』(講古会報1号、1937年)が挟まれている
村岡	IV	1—8	[資料メモ・抄録]	1924年以降	村岡典嗣	縦罫ノート	1	210×165	94頁	論文の切り貼り。「神道の倫理学」「古学神道とその神学的発展」。：序論／神道の意義とその諸相(序言／神道の意義／神道の諸相、その特質)／皇国主義(特質の一)(淵源／代表的発現)／明浄主義(特質の二)(淵源／代表的発現)／現実主義(淵源／代表的発現)／結論
村岡	IV	1—9	[御伽草子関係資料メモ] [資料メモ・抄録]	1928年頃	村岡典嗣	横罫ノート	1	205×165	84頁	「御伽草子」の分類に関する諸説のメモ書き。「有朋堂文庫」／「新編御伽草子」／「室町時代小説集」／「近古小説新纂」／「近古小説解題」
村岡	IV	1—10	図書館めぐり [資料メモ・抄録]	1930年3月～7月	村岡典嗣	縦罫ノート	1	201×164	130頁	東洋文庫、無窮会、帝国図書館の調査／「異本饅頭屋本節用集考」の解題／その他草稿。
村岡	IV	1—11	論文覚書 [資料メモ・抄録]	1932年	村岡典嗣	横罫ノート	1	208×167	62頁	「枕草子ニツイテ覚書」／「和歌ト思想覚書」／「八千矛神と沼河ひめとの唱和」
村岡	IV	1—12	[歴史と国文学 昭和八年十二月号所載。森銃三氏 屋代弘賢の一節] [資料メモ・抄録]	1933年12月以降		縦書罫紙(B4)	1	245×334	1枚	屋代弘賢の蔵書の主要な所蔵先／森銃三「屋代弘賢」の梗概、一部転記。 日教研旧蔵
村岡	IV	1—13	[森銃三氏 屋代弘賢(歴史と国文学 昭和八年十二月号)] [資料メモ・抄録]	1933年12月以降		縦書罫紙(B4)	1	243×336	1枚	屋代弘賢／森銃三／歴史と国文学／蔵書 日教研旧蔵

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	IV	1—14	井乃氏の論文を読みて〔資料メモ・抄録〕		村岡典嗣	原稿用紙	1	250×179 (1～8枚目)、266×194(9～13枚)	13枚	『記紀学』『萬葉学』『源氏物語と好色一代男』に対する総評及び各著書に対して疑問点を箇条書き 日文研旧蔵
村岡	IV	1—15	雑記〔資料メモ・抄録〕	1934年～1945年	村岡典嗣	縦罫ノート	1	196×158	72頁	第十回の東北帝大全学講義／昭和九年十月九州帝国大学への用意／岩波文庫日読抄／日本国民精神研究の為の抄録 昭和廿年六月／粟散辺洲 その他
村岡	IV	1—16	読書抄記〔資料メモ・抄録〕	1936年	村岡典嗣	縦罫ノート・横罫ノート	2	横罫203×158、縦罫198×158	横罫64頁、縦罫72頁	横罫ノートは、昭和11年11月17日に福岡県立図書館にて青柳種信草稿を閲覧、その際にみた資料の抜き書き／縦罫ノートは、九州帝国大学附属図書館音無文庫閲覧
村岡	IV	1—17	過眼書志〔資料メモ・抄録〕	1936年～1945年	村岡典嗣	縦罫ノート	1	207×162	280頁	城戸千楯『萬那備能広道』の抄録／「鵠齋日録」『杉田玄白全集』第1巻の抄録など。 思想史研旧蔵
村岡	IV	1—18	〔資料メモ・抄録〕	1938年頃	村岡典嗣	縦罫ノート	6	235×156	①96頁、 ②114頁	藤原宗忠「中右記」(史料通覧本)／藤原実資「小右記(野府記)」(史料大成本)／経頼「左経記」／藤原資房「春記」／藤原兼実「玉葉」(国書刊行会本)／「愚管抄に見える道理」／「仁王護国般若密経嘱累品第八」／平安～鎌倉期における運命観に関する資料の抄録／慶応3年～明治23年までの神道関係年表／「大教宣布詔書宣命」／神道関係の論文、資料などからの抜き書き、メモ／道理、末法思想に関する論考、文献資料などからの抜き書き、メモ／「文理科」、「東北帝大(木)」、「東北(水)－東京」、「東北(月)」の講義題目／「昭和十三年度講義(一般講義、特殊講義、演習)」の講義題目
村岡	IV	1—19	下剋上、正直〔資料メモ・抄録〕	1940年3月	村岡典嗣	縦罫ノート	1	209×164	96頁	下剋上、正直に関わる資料抄録。「水鏡」／「建武元年八月二条河原の落首」／「源平盛衰記」／「太平記」／「神皇正統記」／「菅浦文書」／「大塔宮令旨」／「樵談治要」／「梅松論」／「下山御消息」／「内房女房御返旨」／「応仁記」／「応仁略記」
村岡	IV	1—20	一、鬼神新論抄録 二、素行日記抄録 三、平田研究ノ為ノ抄録〔資料メモ・抄録〕	1944年年6月以前	村岡典嗣	縦罫・横罫ノート	1	208×165	208頁	木村鷹太郎の著作からの抄録：鬼神新論、素行日記、平田篤胤、山鹿素行、木村鷹太郎
村岡	IV	1—21	〔資料メモ・抄録〕		村岡典嗣	横罫ノート	1	205×165	142頁	北畠親房「神皇正統記」の諸本と注釈、参考文献のリスト／『日本書記』の抜き書き／『尚書』、『中庸』、『元元集』、知仁勇と三種神器との対応に関する諸説の抜き書き／昭和11年度特殊講義「近世二於ケル国躰観念ノ発展」の講義メモ／日本思想史概論のメモ／『山鹿語類』抜き書き／『謫居童門』抄録／『西洋紀聞』の英訳／閩齊学派関係メモ書き／安積澹泊『大日本史賛藪』抜き書き／室鳩巢『駿台雑話』抜き書き／放伐論メモ(閩齊学派関係)
村岡	IV	1—22	万葉、古語拾遺、高橋氏文、祝詞、宣命、靈異記、天書、旧事記〔資料メモ・抄録〕		村岡典嗣	縦罫ノート	1	210×167	144頁	表題の資料に関するメモ、抄録。
村岡	IV	1—23	愚管抄巻三〔資料メモ・抄録〕		村岡典嗣	縦罫ノート	1	210×150	76頁	活字化された「愚管抄」巻三(81頁～117頁)を1頁ごと切り取り、ノートに貼り付けたもの。
村岡	IV	1—24	本地垂迹説の日本思想史上に於ける意義〔資料メモ・抄録〕		村岡典嗣	縦罫ノート	1	196×158	72頁	「発心集」「撰集抄」に関するメモ、資料抄録
村岡	IV	1—25	塩竈神庫に伝ふる村井古巖の遺書〔資料メモ・抄録〕			印刷物	1	220×778	30枚	村井忠著奉納書目録 日文研旧蔵

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	IV	1—26	[資料メモ・抄録]		村岡典嗣	原稿用紙	1	244×336	1枚	松園耕筆(根岸松雄)に関するメモ書き。 日文研旧蔵
	IV	2	書籍目録・資料目録							
村岡	IV	2—1	[書籍目録]		村岡典嗣	横罫ノート	1	168×213	72枚	蔵書目録
村岡	IV	2—2	[書籍目録]		村岡典嗣	原稿用紙	1	259×173	10枚	日本書紀／神道関係／有職故実／律令／軍記／万葉集関係 日文研旧蔵
村岡	IV	2—3	[書籍目録]		村岡典嗣	原稿用紙	1	258×179	4枚	日本史史料に関する書誌 日文研旧蔵
村岡	IV	2—4	[書籍目録]		村岡典嗣	横罫ノート	1	212×166	96頁	洋書の書名目録
村岡	IV	2—5	[洋書目録]		村岡典嗣	横罫ノート	1	186×130	150頁	洋書の著者名、書名、刊行年を記した目録
村岡	IV	2—6	AUSSERDEUTSCHE GESCHICHTE [洋書目録]			印刷物	1	297×211	34頁	文献リスト
村岡	IV	2—7	[資料目録]			印刷物	1	281×401	1枚	仏教の典籍を中心とした計30点の資料目録。 日文研旧蔵
村岡	IV	2—8	[資料目録]			原稿用紙	1	345×258	3枚	計43点の資料目録。 日文研旧蔵
	IV	3	神道関係資料							
村岡	IV	3—1	[神道関係資料]	1919年	村岡典嗣	ノート(形態不統一)	5	210×165		5集類のノート。①「哲学大辞書 神道え奇選字稿」/「神道辞書 選字一」(144頁)。②「神道辞書 選字二」(144頁)。③「神道辞書第二冊」/「神道辞書 第一稿」(180頁)。④「神道辞書第一冊」/「神道辞書第二稿」(142頁)。⑤「神道辞書第三冊」/「神道辞書 第三冊」(192頁)。
村岡	IV	3—2	松坂行 [神道関係資料]	1930年8月11日～14日	村岡典嗣	横罫ノート	1	207×158	46頁	「松坂行」/「神道学説」: 松坂付近の地域に関する情報や神道関係の情報の雑記
村岡	IV	3—3	[神道関係資料]			方眼罫ノート	1	324×214	288頁	応神15年(284)～大正9年(1920)の年表/天皇名(後、元号)/「古神道」/「仏教神道」/「儒教神道」/「吉利支丹」/「心学」/「俗神道」/「心学及教訓」/「古学神道」/「平田神道」/「俗神道・教祖神道」 日文研旧蔵
村岡	IV	3—4	古事記序文 [神道関係資料]			印刷物	1	383×213	1枚	古事記序文(活版印刷)/裏面は「友山あて手紙」、「安静四年五月弘道館開館式」、四編(もしくは五編)の書簡文の抜き書き。 日文研旧蔵
村岡	IV	3—5	[神道関係資料]		村岡典嗣	横罫ノート	1	200×160	80頁	宮崎文庫蔵書目録/「古語拾遺」の異本のメモ/「古語拾遺」の注釈、研究書のメモ/「古事記」と「古語拾遺」との比較メモ書き/「古語拾遺」についての構成メモ書き/「古語拾遺について」、序言
村岡	IV	3—6	[神道関係資料]		村岡典嗣	原稿用紙を綴じたノート	1	258×173	3	「大乘院当社雑事紀」(『大日本史料』所収)/『日本書紀纂疏』(狩野文庫本) 日文研旧蔵
	IV	4	神道・国学関係資料							
村岡	IV	4—1	[神道・国学関係資料]	1936年以降	村岡典嗣	縦罫ノート	1	220×150	366頁	古史通大意較評、雲伝神道書、海人訳説、天道正理問答など近世を中心とした資料の書誌。

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	IV	4—2	[神道・国学関係資料]	1941年7月頃	村岡典嗣	方眼罫ノート	1	203×160	96頁	「濱千鳥抄録」(蜂須賀家小松本)／扇口庵筆「奥の杖抄」／「雲伝神道書」七冊／「鈴屋書簡抄」(真淵研究の資料として)／篤胤と信友との絶交問題についての抄録
村岡	IV	4—3	[神道・国学関係資料]		村岡典嗣	方眼罫ノート	1	208×165	96頁	明治元年から21年における神道関係の年表／「神代文字」関係抄録／向井元升履歴
村岡	IV	4—4	[古事記、神道関係資料目録・年表] [神道・国学関係資料]		村岡典嗣	方眼罫ノート	1	324×210	142頁	古事記／神道／吉利支丹／心学／平田篤胤関連書籍の目録。日文研旧蔵
村岡	IV	4—5	[風土記・古事記関係メモ] [神道・国学関係資料]		村岡典嗣	横罫ノート	1	210×165	184頁	「出雲風土記」・「常陸風土記」・「播磨風土記」・「肥前風土記」・「豊後風土記」の各書について、神名・人名・年代・題目及び語句の注意すべきものについて抜き書き／「小山田与清古事記書入写」
	IV	5	国学関係資料							
村岡	IV	5—1	古事記伝刊本前稿本、弁臣「伝補缺」、富士谷御杖「神道説」抄録 [国学関係資料]	1921年8月	村岡典嗣	縦罫ノート	1	232×160	102頁	刊本以前の「古事記伝」／「古事記伝補闕」／富士谷御杖「北辺髓脳」／「歌道非唯抄」／「真言辯」
村岡	IV	5—2	信淵・篤胤抄録 [国学関係資料]	1934年以降	村岡典嗣	縦罫ノート	1	209×150	80頁	森銚三「疑問の人佐藤信淵」(「日本及び日本人」(昭和9年7月1日号))／渡辺力「平田篤胤の信仰」(「日本及び日本人」、昭和11年3月号抜書)／三田村篤魚「基督化せる平田篤胤」(昭和13年5月)／「信淵著書中平田について記せるもの」／「平田哥集」／「防海策」／「平田篤胤抄録」
村岡	IV	5—3	[国学関係資料]	1937年頃	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×165	52頁	「古学小伝」(清宮秀堅)／「国学者伝記集成」(吉岡徳明)／「日本百科大辞典」(三省堂)／『国学史概論』(芳賀矢一)／『偉人史叢』(長田偶得)／『偉人研究、平田篤胤言行録』(丸島 敬)／『名人忌辰録』(関根只誠)／『国学全史』(野村八良)／『国学発達史』(清原貞雄)／『平田篤胤翁伝』(村井良八)／「平田自作」上申書／昭和十二年度特殊講義「平田学と水戸学」講義計画／昭和十二年度普通講義「日本思想史概論」講義計画／昭和十二年度演習「日本思想史概論」講義計画／古事記講読メモ書き／伴信友家集抜書
村岡	IV	5—4	伊那の平田学、本居書入本万葉について、天朝無窮歴同附録、抄録 [国学関係資料]	1939年8月、1941年6月、1945年1月	村岡典嗣	縦罫ノート	1	208×164	76頁	「古史伝 巻末の出版由来」／「夜明け前」／「夜明前ノ人物」／「天朝無窮歴抄録」
村岡	IV	5—5	[栗田土満関係資料抄録] [国学関係資料]	1943年9月	村岡典嗣	縦罫ノート	1	158×198	20頁	栗田土満の略歴／『思ひ出るまゝ』の抜書。
村岡	IV	5—6	[国学関係資料]		村岡典嗣	縦罫ノート	1	200×164	82頁	「春庭門人録に見えたる福島地方の門人」／「太平教学名簿に見えたる同上」／「内遠門人録に見えたる」／「福島地方きりしたんについて」／「岩盤文化」(『郷土研究』第2輯)／「きゃとへかとの解説 丸善の為に」／「鈴屋門人録」／「春庭門人録」／「平田門人録」／「春口即立口書口」(西山本)／「愚管抄」(西山本)／「歎異抄」／「崔峯試申記録抄」／「日本精神について」
村岡	IV	5—7	[佐藤信淵・二宮尊徳に関するメモ・抄録] [国学関係資料]		村岡典嗣	横罫ノート	1	210×163	24頁	序言／伝記く時代・家柄・経歴・著作・教授)／両者の対照(共通点、違フ点)／学問・思想／信淵の神道主義にもとづく国家社会政策／尊徳の報徳教 日文研旧蔵

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	IV	5—8	鶴峯戊申稿本類目録〔国学関係資料〕		村岡典嗣	岩波書店書目用紙紐綴	1	218×197	10枚	東北帝国大学に購入した「裏記三種」を類別したもの。
村岡	IV	5—9	狩野文庫別置本調べ・六人部抄録〔国学関係資料〕		村岡典嗣	縦罫ノート	1	208×164	144頁	「名家自筆書入本」／「挫魔概論」／「道之一言」／神道、国学関係のメモ／「石上私淑言巻三」に関するメモ
村岡	IV	5—10	勤請蒙鴻慈創造国学校啓〔国学関係資料〕		荷田東麻呂	印刷物	1	150×219	4頁	日文研旧蔵
村岡	IV	5—11	長調玉琴〔国学関係資料〕		村岡典嗣	原稿用紙	1	256×183	2枚(B5×1、B4×1)	「長調玉琴」の寸法と装幀、翻刻文。 日文研旧蔵
	IV	6	本居宣長関係資料							
村岡	IV	6—1	本居の古事記研究年表〔本居宣長関係資料〕	1925年8月	村岡典嗣	横罫ノート	1	203×160	60頁	宝暦4年(1754)25歳から寛政10年(1798)69歳まで、本居宣長における古事記関連事項を記したもの。
村岡	IV	6—2	〔講習会雑記および本居全集覚書〕〔本居宣長関係資料〕	1939年8月、1943年7月	村岡典嗣	横罫ノート	1	196×160	48頁	昭和14年8月17日～19日、飯田市に講習会の演者として行った際の雑記／昭和18年7月、本居宣長全集作成のためのメモ書き。
村岡	IV	6—3	本居家にて抄録〔本居宣長関係資料〕	1941年6月29日～1942年5月30日	村岡典嗣	縦罫ノート	1	198×155	76頁	本居清造家で閲覧した資料の抄録。末尾には天理図書館稀書目録の抄録。
村岡	IV	6—4	本居宣長全集資料 宣長書簡・遺文〔本居宣長関係資料〕	1942年起筆	村岡典嗣	縦罫ノート	1	208×162	144頁	本居宣長書簡・遺文に関する抄録
村岡	IV	6—5	講読覚書 古事記 本居全集雑記〔本居宣長関係資料〕	1943年7月以降	村岡典嗣	縦罫ノート	1	208×165	98頁	ノート前半が古事記講読会の記録、ノート後半が「本居全集」に関するメモ書き
村岡	IV	6—6	本居全集覚書〔本居宣長関係資料〕	1943年8月	村岡典嗣	縦罫ノート	1	212×153	68頁	徂来・仁斎・契沖に関するメモ／松坂・奈良での資料調査抄録／四大人説に関するメモ
村岡	IV	6—7	本居全集訪書記〔本居宣長関係資料〕	1943年11月	村岡典嗣	横罫ノート	1	208×149	80頁	本居家、三井文庫の資料調査メモ
村岡	IV	6—8	本居宣長覚書一〔本居宣長関係資料〕	1944年3月	村岡典嗣	横罫ノート	1	256×180	80頁	「和歌のうら」／宣長の枕詞についての考察／本居宣長随筆に於ける漢籍日本関係抄録／「馭戒慨言引用支那史」／「四月十八日 本居家訪問ききがき」／「論語徴」／「玉鉾百首 諸刊本」／「(一)抄録せられし徂徠の著作」など資料抄録・メモ
村岡	IV	6—9	〔本居宣長「玉かつま」(岩波文庫)断片〕〔本居宣長関係資料〕		村岡典嗣	印刷物	1	160×109	112頁	日文研旧蔵
村岡	IV	6—10	〔本居宣長全集目次〕〔本居宣長関係資料〕			印刷物	1	293×210	2頁	第21冊から第24冊所収資料の目次 日文研旧蔵
	IV	7	平田篤胤関係資料							
村岡	IV	7—1	篤胤研究のための抄録〔平田篤胤関係資料〕	1945年1月以降	村岡典嗣	横罫ノート	1	260×180	80頁	熊田忠亮「暦の本質とその改良」(昭和18年12月)／荒木俊馬『時と暦』(昭和17年10月)／渡辺敏史「天経或問と江戸中期の天文学」(『天界』241号、昭和16年7月号)／平山清次「暦法及時法」／平田篤胤「春秋命暦序考」／「弘仁暦運記考」／新城新居「こよみと天文」などの論文抜き書き・メモ

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	IV	7—2	篤胤抄録の二〔平田篤胤関係資料〕		村岡典嗣	縦罫ノート	1	210×150	80頁	「宇治拾遺物語」抜書／桑木巖翼「愚管抄の道理」(「丁酉倫理」昭和17年2月号)／論文書誌情報一覧／「配所残筆」抜書／「宣長と篤胤との学説の差異」
	IV	8	源氏物語関係資料							
村岡	IV	8—1	源氏物語研究資料 第一巻	1919年7月	村岡典嗣	縦罫ノート	1	202×162	76頁	四辻善成「河海抄」／一条兼良「花鳥余情」／西三条公條「源氏物語抄」／中院通勝「岷江入楚」／安藤為章「紫家七論」／契沖「源語拾遺」／本居宣長「玉のをくし」／萩原広道「源氏物語評釈」／熊沢蕃山「源語外伝」／松東文三郎「弥勒浄土論」／藤原忠通「法性寺関白御集」／藤原実資「小右記」／藤原宗忠「中右記」／近藤若樹「源語奥旨」／橋守部「稜威雄詔」／岩城準二郎「源氏物語の道義観」。
村岡	IV	8—2	源氏物語研究資料 第二巻	1921年2月	村岡典嗣	縦罫ノート	1	204×163	92頁	「宿世」、「阿弥陀仙」などの語を含む文章を「源氏物語」から抜書／土肥経平「春湊浪話」からの抜書／「教養観」に関する「源氏物語」からの抜書。
	IV	9	和歌関係資料							
村岡	IV	9—1	英訳万葉集覚え〔和歌関係資料〕	1940年7月	村岡典嗣	横罫ノート	1	209×162	97頁	「英訳万葉集について覚書」／「長短歌表」／「自一至廿巻」までの万葉集の情報／「選出について」／「訳し方について」／「排列について」又記載について」
村岡	IV	9—2	〔和歌抜書〕〔和歌関係資料〕		村岡典嗣	縦罫ノート断片	1	264×211	5枚	「万葉集」、「古今和歌集」からの抜き書き。 日文研旧蔵
	IV	10	儒教・仏教・天文学・暦学関係資料							
村岡	IV	10—1	〔仏教教典偈文〕〔仏教関係資料〕			印刷物	1	598×279	1枚	「大方廣佛華嚴經」の一節 日文研旧蔵
村岡	IV	10—2	通書〔儒教関係資料〕		村岡典嗣	原稿用紙	1	230×154	1枚	「礼楽第十三」の一節「礼理也楽和也。陰陽理而後和…」以降の一節の覚え書き。 日文研旧蔵
村岡	IV	10—3	〔天文学・暦学関係資料〕		村岡典嗣	横罫ノート	1	202×160	40頁	「暦日諺解」、「天文義論」、「新城氏暦ト天文」、「天朝無窮暦」からの覚書／太陽暦、太陰暦、支那暦、大古暦に関する記載／「平田ノ三暦説」「古暦二段」「吳暦」に関する記載／日本古暦・皇和通暦・信友の暦説の対比／篤胤の暦説について及びその評価。 日文研旧蔵
村岡	IV	10—4	狩野文庫本別途借出しのもの〔天文学・暦学関係資料〕		村岡典嗣	罫線入り紙片	1	224×142	1枚	「天経或問注解」「天地二球用法記」「九山八海解嘲論」「暦日論釈」「暦日諺解」「天文略名月」「暦日儀解」「天文義論」「天学畧名月羽翼」「皇室度制考」等の書名を記載。 日文研旧蔵
	IV	11	キリシタン関係資料							
村岡	IV	11—1	Traduction Japonaise de Quelque Termes de Religion〔キリシタン関係資料〕	1913年7月筆写	村岡典嗣	横罫ノート	1	207×160	120頁	背表紙に「天主教教會用語和譯集 全」を記載。対訳の用語集。

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	IV	11—2	切支丹研究資料 第一冊 [キリシタン関係資料]	1916年6月～1925年10月3日	村岡典嗣	和綴本	1	236×160	194頁	①コリヤード『コンフェション』(Collado "Dictionnaire japonais" 1.G.170) (刊行年月日)の和訳の筆写。②新村出『吉利支丹版四種』中の懺悔録からの抜き書き／司馬江漢『春波樓弟記』(刊行年月日)からキリシタンに関する記述を抜き書き。③『こんてんつすむんぢ』のローマ字本と国字本の筆写。④『こんてんつすむんぢ』の解説として林若吉の序文の抜き書き。⑤『切支丹抄』(大正14年10月3日筆写)の筆写
村岡	IV	11—3	切支丹本雑記 [キリシタン関係資料]		村岡典嗣	横罫ノート	1	212×172	192頁	「初期吉利支丹文学及同関係書表」／「天草版平家物語」／「伊曾保物語」／「落葉集」／「信心録」／「こんてんつむ、むんぢ」／「落葉集、第二」／「sanctos no hosagueo」／「dictionarium latino」／「vocabulario」／「こんてんつむ、むんぢ」／「arde da lingaa」／「節用集」／「contemplus mundi対照」朱八邦字本
村岡	IV	11—4	[キリシタン関係資料]	1923年	村岡典嗣	横罫ノート	1	228×185	298頁	"Sanctos no Gosaguio" (大正12年11月22日、Bodleian Library)／"Conlempus Muundi" (大正12年11月20日～30日、Bodleian Library)／() Guia de pecadores(ぎやどべかどる)抄録(大正12年12月13日、大英博物館東洋研究室)。
村岡	IV	11—5	[キリシタン関係資料]		村岡典嗣	縦罫ノート	1	166×100	287頁	『陸軍士官学校文庫』／『史学界論叢』／『伊勢新聞』などに掲載された資料・論文から抄録
村岡	IV	11—6	[キリシタン関係資料]		村岡典嗣	横罫ノート	1	206×165	240頁	中国への宣教師関係資料の書誌的記述と資料抜き書き／マテオ・リッチ『天主実義』／マテオ・リッチ『畸人十篇』／徐光啓『闢釈氏諸妄』／羅明堅『天主聖教実録』など。
村岡	IV	11—7	[キリシタン関係資料]		村岡典嗣	横罫ノート	1	202×164	190頁＋62頁	善往編『約翰福音之伝』などカナ書聖書訳や漢訳聖書数種からの抄録／19世紀に中国で刊行された漢訳聖書の種類の調査
村岡	IV	11—8	[キリシタン関係資料]		村岡典嗣	横罫ノート	1	205×165	240頁	キリスト教関係書目抄録／R.K.Douglas,"catalogue of chinese printed books,manuscripts d drawings in the library of the british museum",1877.／R.K.Douglas,"supplemintary catalogue of chinese books d manuscupts in the british museum",1903.／R.K.Douglas,"catalogue of uapanese printed books and manuscripts in the library of the british museum",1898.／Sir.R.K.Douglas,"catalogue of japanese printed books d manuscupts in the british museum acquirid durung the ycars" 1899-1903,satow,"jesuit mission press in japan"
村岡	IV	11—9	[キリシタン関係資料]	1923年	村岡典嗣	横罫ノート	1	233×181	294頁	「ぎやどべかどる」の筆写。
村岡	IV	11—10	きゃとへかどる 第二冊 [キリシタン関係資料]		村岡典嗣	横罫ノート	1	230×180	296頁	「ぎやどへかどるの集字」／「きゃとへかどる下巻第一篇の目録」／「きゃとへかどる巻の二」の抄録

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	IV	11—11	[キリシタン関係資料]	1925年8月～9月	村岡典嗣	横罫ノート	4	203×160	—	「吉利支丹文学抄字抄 草稿一」(大正14年8月19日、56頁)／「吉利支丹文学抄字集第一 草稿二」(大正14年8月20日、54頁)／「吉利支丹文学字書 第二部」(56頁)／「吉利支丹文字用語 摘解」(大正14年9月4日、36頁)
村岡	IV	11—12	聖ばるらあんと聖じよさはつの御作業 [キリシタン関係資料]	1925年頃	村岡典嗣	横罫ノート	1	257×203	96頁	『聖徒の御作業』に関するノート。
村岡	IV	11—13	日本耶蘇教年表 [キリシタン関係資料]			和綴本	1	242×165	74頁	年表は天文9(1540)から明治32(1899)におけるキリスト教関係事項の年表。
村岡	IV	11—14	年表 [キリシタン関係資料]		村岡典嗣	原稿用紙	1	167×242(1枚～4枚)、188×212(5枚～8枚)	8枚	シドッチ漂着から死去までの新井白石とシドッチに関する事績を記した年譜 日文研旧蔵
村岡	IV	11—15	[キリシタン関係資料]	1928年頃	村岡典嗣	縦罫ノート	1	190×128	248頁	「高清水町土田甲平氏所蔵石母田文書の調査」(調査は昭和3年4月30日・5月6日)／「仙北地方に於ける吉利支丹遺跡」の草稿／「忠宗君引証記」／白石先生書簡
村岡	IV	11—16	仙台切支丹類族探墓記 [キリシタン関係資料]	1935年10月	村岡典嗣	縦罫ノート	1	203×163	160頁	仙台市内、郡部(黒川郡)の寺院の所蔵する改帳を調査したもの。
村岡	IV	11—17	仙臺吉利支丹文書(凡五十種五十七枚) [キリシタン関係資料]			印刷物	1	277×197	2枚	諸せんさく類関係資料／そてろ関係資料／後藤壽庵関係資料／南蠻はてれん関係資料／籠者及び法度名簿関係資料 日文研旧蔵
	IV	12	その他の資料・洋書関係							
村岡	IV	12—1	チャンブレ研究	1935年2月	村岡典嗣	横罫ノート	1	205×165	190頁	B.H.chamberlainノ研究(昭和十年二月)／年譜／著作概観／新聞切抜／著作解説
村岡	IV	12—2	OBJETS D'ART ET DE HAUTE CURIOSITE [洋書断片]			印刷物	1	169×115	60頁	聖母子像の図版 日文研旧蔵
村岡	IV	12—3	Geschichte der Japanelilchen Martyrer [洋書断片]			印刷物	1	163×110	47頁	日本の殉教者の歴史に関する内容。 日文研旧蔵
村岡	IV	12—4	[洋書断片]		H.Haasほか	印刷物	1	469×319	1枚	日本における最古のヨーロッパ人の名前、日本における養子縁組の習慣、イスラム教の改革に関する内容。 日文研旧蔵
村岡	IV	12—5	[洋書断片]			印刷物	1	231×161	6頁	図書の一部(ドイツ語)。 日文研旧蔵
村岡	IV	12—6	(洋書断片)			印刷物	1	216×141	1枚	ドイツ語文献の書誌(文献)目録 日文研旧蔵
村岡	IV	12—7	[洋書断片]			印刷物	1	124×180	32頁	日文研旧蔵
村岡	IV	12—8	(洋書断片)			印刷物	1	169×115	15頁	16C末～17C初頭のイタリア美術史に関する内容。 日文研旧蔵
村岡	IV	12—9	[洋書断片]			印刷物	1	161×111	12頁	1590～1614年における日本へのキリスト教流入に関する内容 日文研旧蔵
村岡	IV	12—10	[洋書断片]			印刷物	1	160×109	36頁	日文研旧蔵

V 記念論文集・全集関係資料

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	V	1—1	村岡教授記念論文封筒	1946年以降		封筒	1	197×138	1	以下、V—1—1からV—1—35までは、この封筒の中にまとめられていたもの。
村岡	V	1—2	村岡典嗣宛封筒	1937年5月12日	宮内健正	封筒	1	215×84	1枚	
村岡	V	1—3	梅澤伊勢三宛葉書	1946年	青山なお	葉書	1	139×90	1枚	村岡の法要が無事終わったことへの礼状。
村岡	V	1—4	梅澤伊勢三宛封筒		1つは青山なを、もう1つは不明。	封筒	2	青山なを筆の封筒：280×113、不明の封筒314×119	2枚	村岡典嗣記念論文集を送付した封筒。
村岡	V	1—5	梅澤伊勢三宛手紙	1947年4月29日	浅野明光	葉書	1	120×74	1枚	記念論文集執筆者として宮崎典也氏を推薦する内容。
村岡	V	1—6	梅澤伊勢三宛葉書	1947年9月28日	浅野明光	葉書	1	140×89	1枚	記念論文集執筆について考究中の旨を伝える内容。
村岡	V	1—7	梅澤伊勢三宛葉書	1947年10月5日	浅野明光	葉書	1	140×89	1枚	村岡典嗣のノートに関する原稿作成、記念論文集の題目が「神学と国学」であることを伝える内容。
村岡	V	1—8	梅澤伊勢三宛封筒		浅野明光	封筒	1	223×95	1枚	
村岡	V	1—9	梅澤伊勢三宛葉書		浅野明光	葉書	1	121×74	1枚	日付は10月15日。
村岡	V	1—10	梅澤伊勢三宛葉書		浅野明光	葉書	1	175×75	1枚	村岡典嗣の一周忌につき、追悼文を送付した趣旨。
村岡	V	1—11	梅澤伊勢三宛手紙、封筒	1947年4月7日	石塚一石	封筒・便箋	1	封筒：155×61、手紙：140×463	封筒1枚、手紙2枚	村岡典嗣一周忌の追悼文作成辞退、会合に参加できない旨、そのほか近況報告。
村岡	V	1—12	梅澤伊勢三宛手紙	1946年10月22日	大森志郎	葉書	1	120×74	1枚	村岡典嗣先生記念事業の計画に関する内容。
村岡	V	1—13	梅澤伊勢三宛封筒	1947年3月10日	大森志郎	封筒	1	197×82	1枚	
村岡	V	1—14	梅沢伊勢三宛葉書	1947年12月23日	大森志郎	葉書	1	140×89	1枚	27日に面会希望の旨を伝える内容。
村岡	V	1—15	梅澤伊勢三宛手紙		大森志郎	手紙	1	148×205	2枚	日付は3月8日。村岡典嗣の一周忌にあわせて卒業生と在校生の会合開催の依頼、村岡典嗣全集刊行計画の相談、追悼文集作成についての相談。
村岡	V	1—16	梅澤伊勢三宛封筒、手紙		大森志郎	封筒、手紙	1	封筒：194×90、手紙：143×210	2	日付は3月19日。村岡典嗣の一周忌にあわせた会合の開催、全集の編纂に関する内容。
村岡	V	1—17	梅澤伊勢三宛手紙		大森志郎	手紙	1	140×89	1枚	日付は12月12日（消印は12月18日）。打ち合わせ日程の打診、村岡典嗣の講義ノート閲覧希望を伝える内容。
村岡	V	1—18	梅沢伊勢三宛手紙		大森志郎	葉書	1	140×89	1枚	消印は10月5日。
村岡	V	1—19	梅沢伊勢三宛葉書		大森志郎	葉書	1	140×89	1枚	村岡典嗣記念論文集の原稿について。

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	V	1—20	梅澤伊勢三宛手紙		重松信弘	葉書	1	140×89	1枚	村岡典嗣記念論文集の原稿について。
村岡	V	1—21	梅澤伊勢三宛葉書		重松信弘	葉書	1	140×89	1枚	村岡典嗣記念論文集の原稿について。
村岡	V	1—22	梅澤伊勢三宛手紙、封筒	1946年10月3日	鈴木重一	手紙	1	202×82	2枚	送別の宴、卒業論文指導への礼状。
村岡	V	1—23	梅澤伊勢三宛葉書		平重道	葉書	1	138×89	1枚	論文の提出が遅れている事への謝罪。
村岡	V	1—24	梅澤伊勢三宛手紙	1947年10月2日	芳賀幸四郎	葉書	1	140×90	1枚	村岡の記念論文に投稿する論題「伴信友の史観について」の報告。
村岡	V	1—25	梅澤伊勢三宛葉書	1947年10月8日	宮崎典也	葉書	1	140×89	1枚	記念論文集の題目が「富士谷御杖の思想—特にその神学を中心として」であることを伝える内容。
村岡	V	1—26	梅澤伊勢三宛手紙	1947年10月10日	山本信道		1	140×89	1	村岡典嗣記念論文集の原稿提出について。
村岡	V	1—27	石津昭爾宛封筒		大森志郎	封筒	1	204×82	1	日付は3月12日。
村岡	V	1—28	青山なを宛手紙		芳賀幸四郎	手紙	1	257×185	1枚	村岡典嗣先生記念事業に関する内容。
村岡	V	1—29	日本思想史研究室宛手紙		芳賀幸四郎	手紙	1	180×265	1枚	村岡典嗣記念論文集の原稿送付状。
村岡	V	1—30	[封筒]	1947年		封筒	1	185×84	1	封筒の表にメモ書き。封筒は秋田県鹿角郡花輪尋常高等小学校から小林好日教授宛。村岡の1周忌追憶文集作成への寄稿依頼。村岡の全集、追悼論文集の計画。
村岡	V	1—31	[村岡典嗣記念論文集に関するメモ]			縦罫用紙断片	1	107×167	1	9月22日の日付。
村岡	V	1—32	[住所記録等]			縦罫用紙(右肩仮綴じ)	1	245×169	5枚	氏名と住所を書いた紙。手紙の下書き。
村岡	V	1—33	村岡論文集寄付募集			縦罫用紙	1	213×142	1枚	寄付者と金額のメモ。
村岡	V	1—34	希望事項		浅野明光	縦罫用紙断片	1	175×110	1枚	村岡典嗣記念論文集の執筆者に山本信道氏、宮崎典也氏を加える趣旨。
村岡	V	1—35	村岡典嗣教授記念論文集題目一覧			縦罫用紙	2	243×178	2枚	論文集の執筆者とタイトル一覧。浅野明光「神学と国学」／青山なを「源氏物語と紫式部日記の一致」／家永三郎「近世に於ける庶民の自覚」／梅澤伊勢三「記紀の成立とその時代背景」／重松信弘「源氏物語に於ける超感覚的なものに就て」／庄司三男「蘭学時代に於ける医者職業倫理に就ての一考察」／芳賀幸四郎「伴信友の史観について」／宮崎典也「富士谷御杖の思想」／森田康之助「藤樹学とその宗教的契機」／山本信道「二宮尊徳の思想」
村岡	V	2	神学と国学		浅野明光	原稿用紙	1	195×140	102頁	村岡典嗣教授記念論文集の原稿。
村岡	V	3	源氏物語と紫式部日記との一致	1948年1月	青山なを	原稿用紙	1	220×318	50枚	村岡典嗣記念論文集の原稿。
村岡	V	4	近世に於ける庶民の自覚		家永三郎	原稿用紙	1	225×185	21枚	村岡典嗣教授記念論文集の原稿。
村岡	V	5	源氏物語に於ける超感覚的なものに就て		重松信弘	原稿用紙	1	210×155	58枚	村岡典嗣教授記念論文集の原稿。

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	V	6	蘭学時代に於ける医者職業倫理に就ての一考察—杉田成卿の「医戒」翻訳の問題を中心として		庄司三男	原稿用紙	1	275×193	115枚	村岡典嗣教授記念論文集の原稿。
村岡	V	7	伴信友の史観について		芳賀幸四郎	原稿用紙	1	257×360	39枚	村岡典嗣教授記念論文集の原稿。
村岡	V	8	富士谷御杖の思想—特に神学を中心として		宮崎典也	原稿用紙	1	255×361	33枚	村岡典嗣教授記念論文集の原稿。
村岡	V	9	藤樹学とその宗教的契機		森田康之助	原稿用紙	1	250×350	51枚	村岡典嗣教授記念論文集の原稿。
村岡	V	10	二宮尊徳の思想		山本信道	原稿用紙	1	252×180	57枚	村岡典嗣教授記念論文集の原稿。
村岡	V	11	[原稿断片]			原稿用紙	1	182×256	6枚	平田学と(後期)水戸学の語義及び両者の日本倫理思想史上の位置について。
村岡	V	12	村岡典嗣教授草稿類目録			和綴本	1	240×170	102頁	明治39年7月15日の早稲田大学文学科卒業から昭和21年3月21日の東京文科大学教授免官までの村岡の履歴と、著訳書、論文、講演等の目録。
村岡	V	13	[村岡典嗣略歴]			紙片(答案用紙の裏)	1	190×262	1枚	明治34年から大正8年の村岡典嗣の略歴
村岡	V	14	[村岡典嗣全集編纂関係メモ]	1946年～1948年		メモ用紙	1	225×157	19枚	村岡典嗣全集出版を目的とした刊行会設立の経緯、刊行会メンバー、打合会(昭和23年12月27日)の議題及び決定事項(出版内容、出版計画)／「編輯事務費概算」添付／委員への原稿用紙(1000枚)割当／編集・旅費・印税・献本などの諸事項について刊行会と遺族(村岡哲)との間にかわされた契約書の下書き 日文研旧蔵
村岡	V	15	[原稿断片]			原稿用紙(20×10)	1	253×175	1枚	村岡の講義ノート刊行に寄せる内容 日文研旧蔵

VI 人文科学研究報告関係資料

村岡	VI	1	人文科学研究報告	1944年1月23日	佐々木理	原稿用紙	1	253×176	12枚	「西方亜細亜及び欧州諸国に於ける古代伝説の比較研究を通じて見たる欧亜民族の特質」の研究経過報告書。246-9・10と関連。／購入図書のリスト。 日文研旧蔵
村岡	VI	2	西方亜細亜に於ける古代伝説の研究(土居光知)、ギルガメシュ叙事詩の研究(佐々木理)	1945年2月26日	土居光知	原稿用紙	1	264×192	3枚	「西方亜細亜～」／「ギルガメシュ叙事詩～」／論文概要／今後の研究展望 日文研旧蔵
村岡	VI	3	「民族性の比較研究」中 我国芸道に於ける日本的教養と錬成の方法 報告書	1945年3月	入澤宗寿、仲新、村山貞雄、海後宗臣、宮坂哲文	原稿用紙	1	217×155	178	「我国…の方法」についての研究の途中報告書。：歌道・入澤宗寿／書道・仲新／畫道・村山貞雄／能楽・海後宗臣／茶道・宮坂哲文 日文研旧蔵
村岡	VI	4	神社の崇敬及び祭祀の思想的・習俗的研究報告書(昭和十八年度、九年度調査)	1945年3月	河野省三	原稿用紙	3	210×297	上58枚、中136枚、下104枚	序説／神社の崇敬と其の特色／神社の祭祀とその特色／神社の崇敬並に一般祭祀を通して観たる日本民族性の考察。 日文研旧蔵
村岡	VI	5—1	[村岡典嗣宛空封筒]	1945年4月23日	河野省三	封筒	1	250×174	1枚	差出人は河野省三。封筒裏に「民族性研究論文」。 日文研旧蔵
村岡	VI	5—2	[村岡典嗣宛空封筒]	1945年4月23日	河野省三	封筒	1	230×180	1枚	差出人は河野省三。 日文研旧蔵

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	VI	5—3	[村岡典嗣宛空封筒]	1945年4月23日	河野省三	封筒	1	255×180	1枚	差出人は河野省三。平田篤胤大人90年記念会の封筒。 日文研旧蔵
村岡	VI	6	「仏教ニ現レタル印度精神ノ研究」其ノ一—慈雲尊者ノ研究	1945年10月以降	山田龍城	原稿用紙	1	250×175	14枚	「昭和十九年度人文科学研究報告」。「慈雲尊者ノ研究」を選ぶたことに就て／慈雲尊者ノ研究」の経過、附言。 日文研旧蔵
村岡	VI	7	研究報告		村岡哲	原稿用紙	1	254×175	87枚	「若きゲルレスに於けるドイツ民族性観念の確立」「ドイツ民族に於ける外国文化摂取の性格研究」：第一部序説。 日文研旧蔵
村岡	VI	8	亜米利加及び英吉利両国民族性の研究 進行情態報告		富屋勇	原稿用紙	1	244×169	3枚	「民族」という研究テーマに関する研究報告。：英米両国国民性の比較(富屋勇)／亜米利加帝国主義と国民性(中野好夫)／亜米利加清教主義(西川正身)／英国海外発展に現れたる民族性(松浦嘉一)／英国の清教主義(小泉一郎)／英国史に現れたる民族性(倉橋文雄)／英国文人の亜米利加観(嶺卓二) 日文研旧蔵
村岡	VI	9	独逸の教育に現れた独逸民族性・研究概要並に進行情態		高橋里美・細谷恒夫	原稿用紙	1	248×177	17枚	研究方針／問題の所在／現在迄の研究の進行情況／近世(ルネサンス以降)：主に第一次世界大戦後に至るドイツ教育史を素材に、ドイツ民族の民族性を明らかにしようとした論考。 日文研旧蔵
村岡	VI	10	村岡班、民族性の比較研究		石津照璽	原稿用紙	1	260×185	22枚	「学研」研究報告一(概要)：「宗教を通じて見たる東亜民族の世界観」／「民族性の比較研究」／世界観の本質と諸民族の世界観指導といふことに就て／宗教的世界観の特質／仏教を通じて見たる宗教的世界観の一類型とその究極的遡原／右によつて得られたる存在とくに人間存在に関する根本構造論とそのアジア的特質に関する闡明／とくに生死論にあらわれたるその特質と西欧的生死観との比較／東亜諸民族の宗教に於けるコスモゴニーにみられる宗教的世界観の特質とその解釈的位置づけ 日文研旧蔵
村岡	VI	11	民族性 研究室 図書目録	1945年頃	村岡典嗣	原稿用紙を再編綴(右綴じ)	1	197×135	56頁	書名、冊数、番号を記した図書目録

Ⅶ その他

村岡	Ⅶ	1	実験心理学講義 松本亦太郎講	1902年9月～1903年6月	村岡典嗣	横罫ノート	1	202×156	164頁	明治35年度早稲田大学文科一年時の受講ノート。
村岡	Ⅶ	2	渡欧航中日記	1923年	村岡典嗣	横罫ノート	1	203×130	126頁	ヨーロッパ遊学に向から船(伏見丸)の中で書いた日記(5月30日～7月11日)。 思想史研旧蔵
村岡	Ⅶ	3	[『日本思潮』の一部]	1928年		印刷物	1	222×150	1枚	『日本思潮』の一部(87頁～88頁) 日文研旧蔵
村岡	Ⅶ	4	日本精神と日本文化 講演覚書	1933年	村岡典嗣	ノート表紙	1	210×146 (表表紙)、 210×168 (裏表紙)	2枚	表紙のみ。公民教育講習会における講演の覚書。
村岡	Ⅶ	5	第二 研究所の構成について			原稿用紙	1	259×359	1枚	日本(精神)文化研究所の設置構想に関する資料 日文研旧蔵
村岡	Ⅶ	6	[論文審査]	1928年11月24日以降	村岡典嗣	縦罫ノート	1	205×162	68頁	卒業論文の内容メモと評価。
村岡	Ⅶ	7	昭和九年以降卒業論文審査	1934年3月～1936年	村岡典嗣	縦罫ノート	1	207×163	140頁	卒業論文の内容メモと評価。

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	VII	8	昭和十六年卒業論文審査覚	1941年	村岡典嗣	横罫ノート	1	210×165	76頁	東京文理科大学(3月6日口述試問)／東北帝国大学(3月9日口述試問)／卒業論文の試問内容。
村岡	VII	9	昭和十六年度論文審査覚え	1941年～1942年	村岡典嗣	縦罫ノート	1	210×150	80頁	昭和16年度東京文理大学卒業論文審査に関する覚書／昭和17年9月、東京文理大学卒業論文審査に関する覚書／東京帝国大学、東北帝国大学、試験期日、問題、レポート題目／昭和17年9月、東北帝国大学卒業論文。
村岡	VII	10	昭和十九年度 国語問題		村岡典嗣	原稿用紙紙片	1	191×146	1枚	『玉勝間』十四の巻(「岩波本下二二一」注記あり)から本文を引用。日文研旧蔵
村岡	VII	11	東北帝国大学附属図書館図書借受証	1944年4月21日～ 1945年1月17日	村岡典嗣	カード用紙	1	131×74	103枚	東北帝国大学附属図書館の図書借受証。「村岡哲」名義のカードもある。 日文研旧蔵
村岡	VII	12	国民精神高揚講演會		村岡典嗣	原稿用紙	1	270×190	1枚	東北帝国大学主催国民精神高揚講演會の式次第の下書き。第一日(「挨拶」／「日本科学の現状」／「時局下の日本経済生活」)／第二日(「フィヒテ」／「時局下と信仰」／「国体精神」) 日文研旧蔵
村岡	VII	13	大和巡	1906年10月	水木要太郎	印刷物	1	185×130	219頁	奈良の寺社・史跡に関する内容。 日文研旧蔵
村岡	VII	14	史学研究会講演集 第二冊	1909年10月10日	史学研究会	印刷物	1	205×142	183頁	西村時彦「宋学伝来の淵源」／小川琢治「長白山附近の地勢及び松花江水源」／大谷光瑞「『東洋史研究』に就きて」／上村観光「碧山日録の著者に就きて」／伊東尾四郎「貝原益軒と京都地方」／幸田成支「貝原益軒の書簡」 日文研旧蔵
村岡	VII	15	歌学資料図書目録	1917年7月	佐々木信綱	製本印刷物	1	186×123	40頁	『日本歌学史』／『和歌史の研究』重要資料／希観資料／その他／新たに発見／紹介する資料の目録／帝国学土院にて陳列したもの
村岡	VII	16	岩波講座 世界思潮 月報第一号	1928年		印刷物	1	138×199	4頁	羽仁五郎「喜劇作者マキャベリ」 日文研旧蔵
村岡	VII	17	理想第十号	1929年3月20日	理想社	印刷物	1	225×150	122頁	ヘルバルト對ヘーゲル(児玉達童)／唯物史観の事情(杉森孝次郎)／判断論(佐藤慶二)／スピノザの片影(藤井兼誼)／プラトンの辯證法(川本為郎)／ヘーゲルに於ける「精神の氣隨」(岩崎勉)／共產主義に對するスペンサーの批評(丸山岩吉)／獨逸浪漫派の宗教觀(成瀬無極)／虚實皮膜の間(山口剛) 日文研旧蔵
村岡	VII	18	竹取物語研究	1929年	秋葉雪子	原稿用紙(25×24)	1	281×197	58頁	日文研旧蔵
村岡	VII	19	光源氏の評価にみゆる紫式部の立場について	1929年12月10日	山田ひさ江	原稿用紙	1	185×130	90枚	原稿:光源氏の批評を中心とせる物のあはれ説／源氏批評と物のあはれ小説の限界／物のあはれ説の理論的考察／藤壺の物のまぎれについて／物語中の位置／事件の展開中に見ゆる紫式部の態度 日文研旧蔵
村岡	VII	20	貝原益軒の研究		山本信道	原稿用紙	1	252×177	137枚	日文研旧蔵
村岡	VII	21	卒業論文 藤田東湖正気歌の研究(一部)		堀越昌夫	原稿用紙	1	252×181	11枚	日文研旧蔵
村岡	VII	22	芭蕉の俳号		井乃香樹	原稿用紙	1	265×188	118枚	日文研旧蔵
村岡	VII	23	(原稿断片)			原稿用紙	1	263×187	1枚	松尾芭蕉の俳号の変遷に関する論文 日文研旧蔵

請求記号			資料名	作成年代	作成者	形態	数量	規格	分量	内容・備考
村岡	VII	24	イルマン・ハビヤン小傳	1933年9月17日	土居忠生	印刷物	1	198×272	1枚	『國文学新報』第一年第十四號(昭和八年九月廿五日刊)の記事の切り抜き:伊本澤美「万曆赤繪」(一部)／大屋本栄花物語の写真／藤岡勝二(言語学者)の功績を記念する事業に関する記事／新村出「天草吉利支丹版の平家物語抜書及其編者」／姉崎正治「ころびイルマン不干齋ハビヤンと其著作」／ポルトガル・アジュダ文庫蔵日本蘇耶会文書「日本耶蘇會に於いて入會を許可せられたイルマンの名簿」／大英博物館蔵日本蘇耶会士名簿 日文研旧蔵
村岡	VII	25	四 刊行順序豫定			印刷物	1	210×147	1枚	A4版用紙を二つ折りにしたもの。本居宣長全集の刊行に関わるものか。 日文研旧蔵
村岡	VII	26	村岡典嗣先生没後三十年記念会記念写真	1975年4月19日		写真	1	115×162	1枚	昭和50年(1975)4月19日、仙台ホテルでの村岡典嗣先生没後30周年記念会の記念写真。